千葉県八千代市

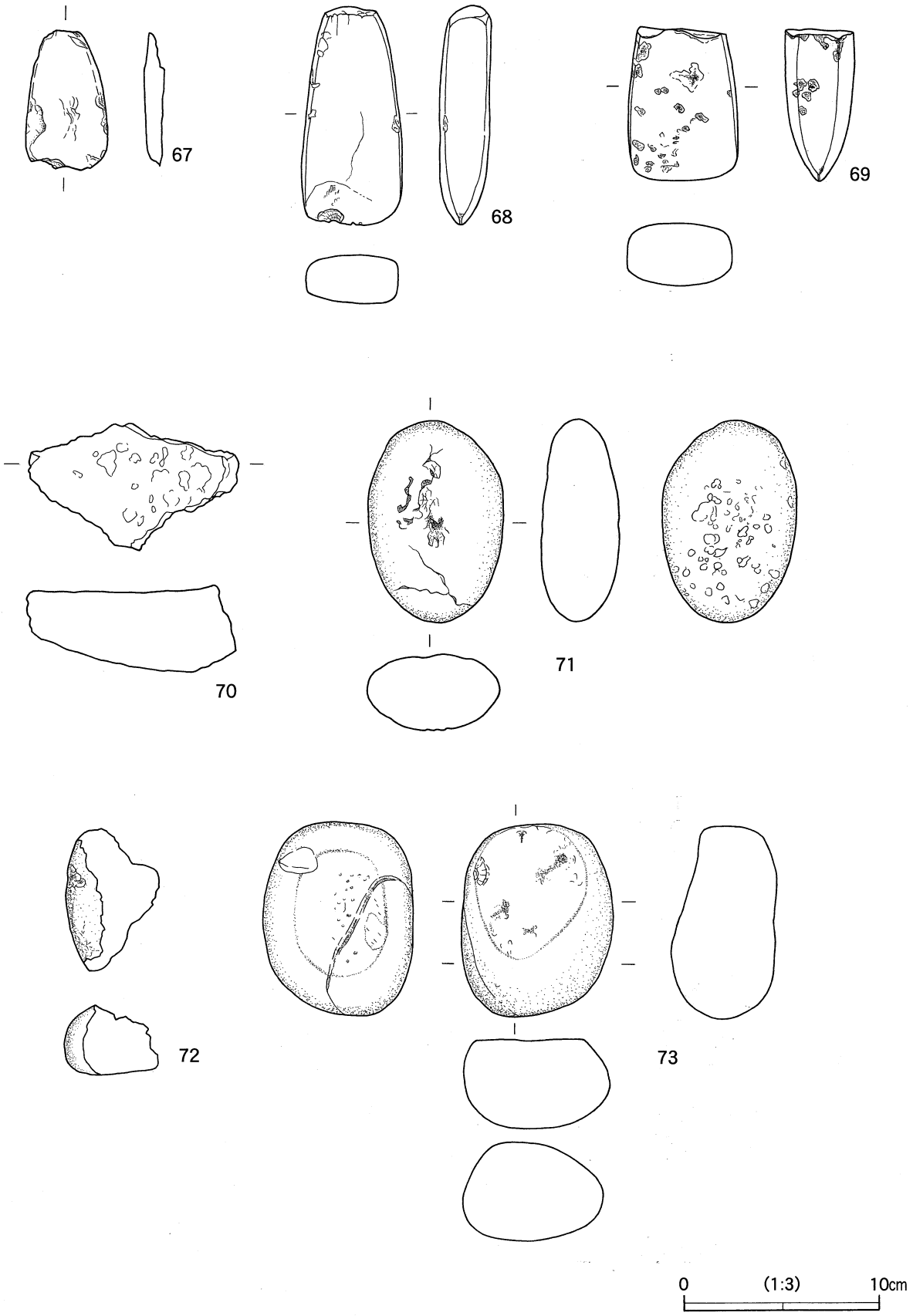
浅間内遺跡発掘調査報告書

浅間内遺跡　第２次本調査

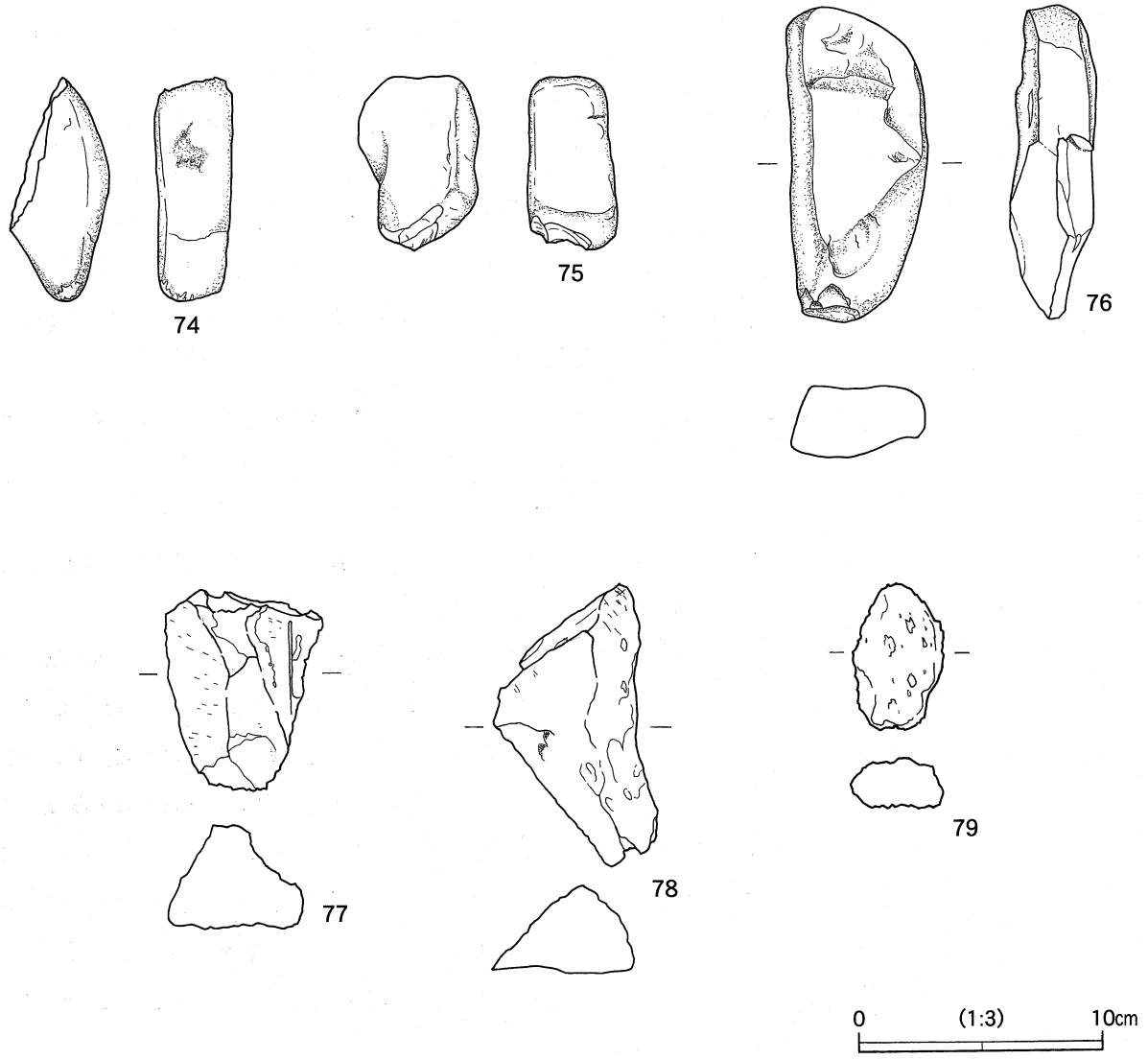
浅間内遺跡　第３次本調査

平成18年度

八　千　代　市　教　育　委　員　会



第51図　K1古墳出土石器（2）



第 52 図　K1 古墳出土石器（3）

（6）その他の遺構及び遺構外出土の縄文時代遺物

主に縄文時代以外の遺構及び遺構外から出土した縄文時代の遺物を報告する。早期撚糸文，前期興津式，中期五領ヶ台式・阿玉台式・加曽利E式などの土器類，土器片錘，石鏃・打製石斧・敲石などの石器類，黒曜石剥片などである。

縄文土器（第53図～第56図）

1～18は，早期撚糸文系土器である。概ね井草式～夏島式の範囲にはいるものと考えられる。色は，淡褐色が多く，胎土には細砂を含む。1・2は，頚部に横方向の縄文が施文されており，井草Ⅰ式であろう。その他は縦位に施文されており，8を除いては，口唇部の肥厚が弱く，外反も著しくない。井草Ⅱ式～夏島式が主体を占めるものと考える。

1・2とも縄文の節が不明瞭。1（D34-374）。2（D37-264）。3　口唇部は，RL縄文，胴部は，節が不明瞭。井草Ⅱ式。（D41-25）。4　RL縄文。（D47-17）。6　縄文不明瞭。（D34一括）。7　底部付近。丸底であろう。縄文不明瞭。（D53-12）。8　LR縄文か。（D63-84）。9　縄文不明瞭。（F8-77-3G）。10　撚糸文L施文。（F8-79G）。11　RL縄文か。（F8-84G）。12　RL縄文施文。井草Ⅱ式。（F8-66-1G）。13　RL縄文か。（F8-66G）。14無節R施文か。（F8-85-3G）。15・16　LR縄文か。（F8-97G）。17　RL縄文か。（F9-8-2G）。5　RL縄文。（P316-3）。

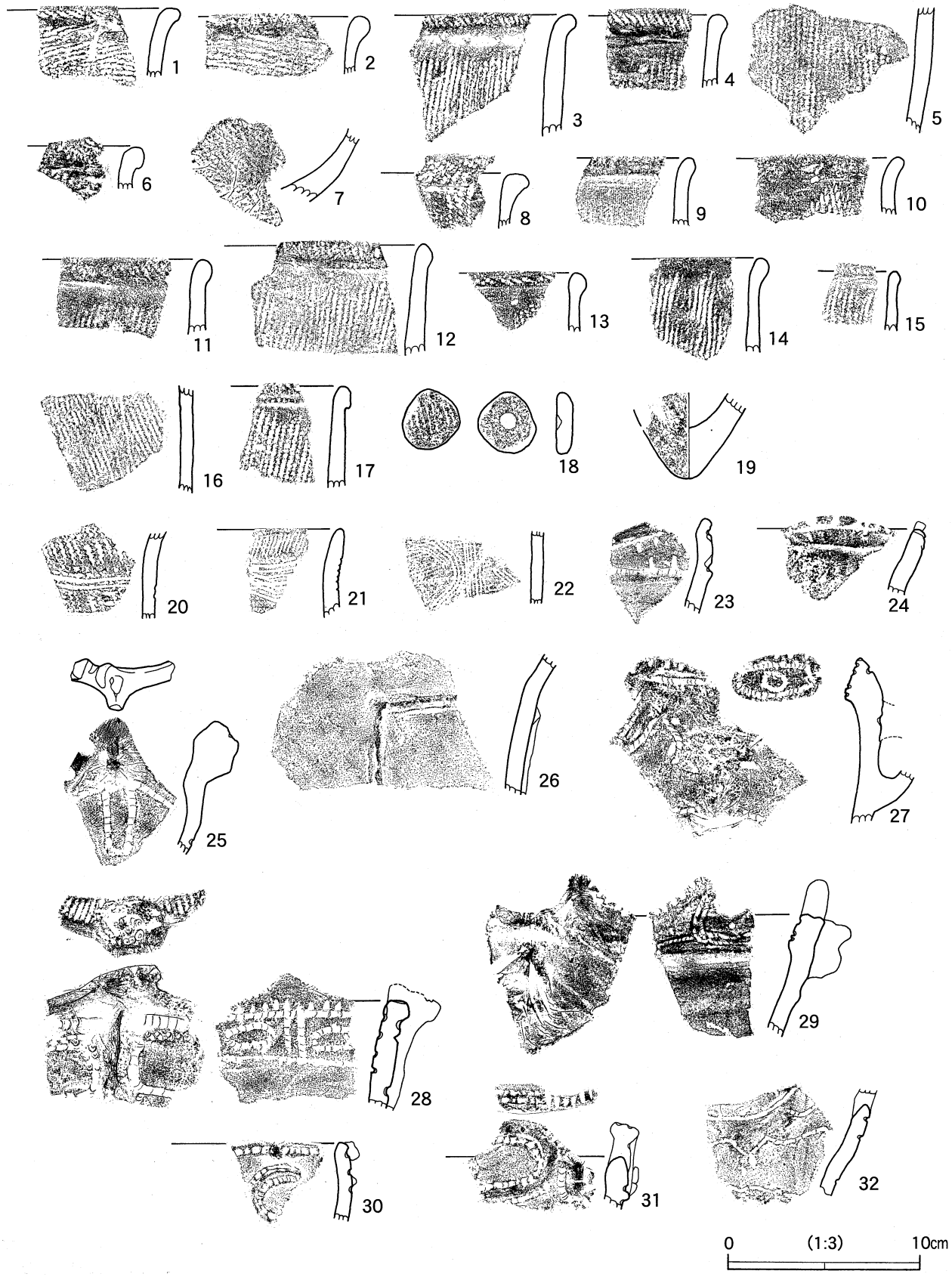
18　土製円盤。撚糸文系土器片を円形に整えたもの。内面の円形の窪みは，焼成後穿孔の途中のような状態。撚糸文Rか。（F8-99-3G）。

19　尖底部。外面ヘラ削り。（M11東西-187）。

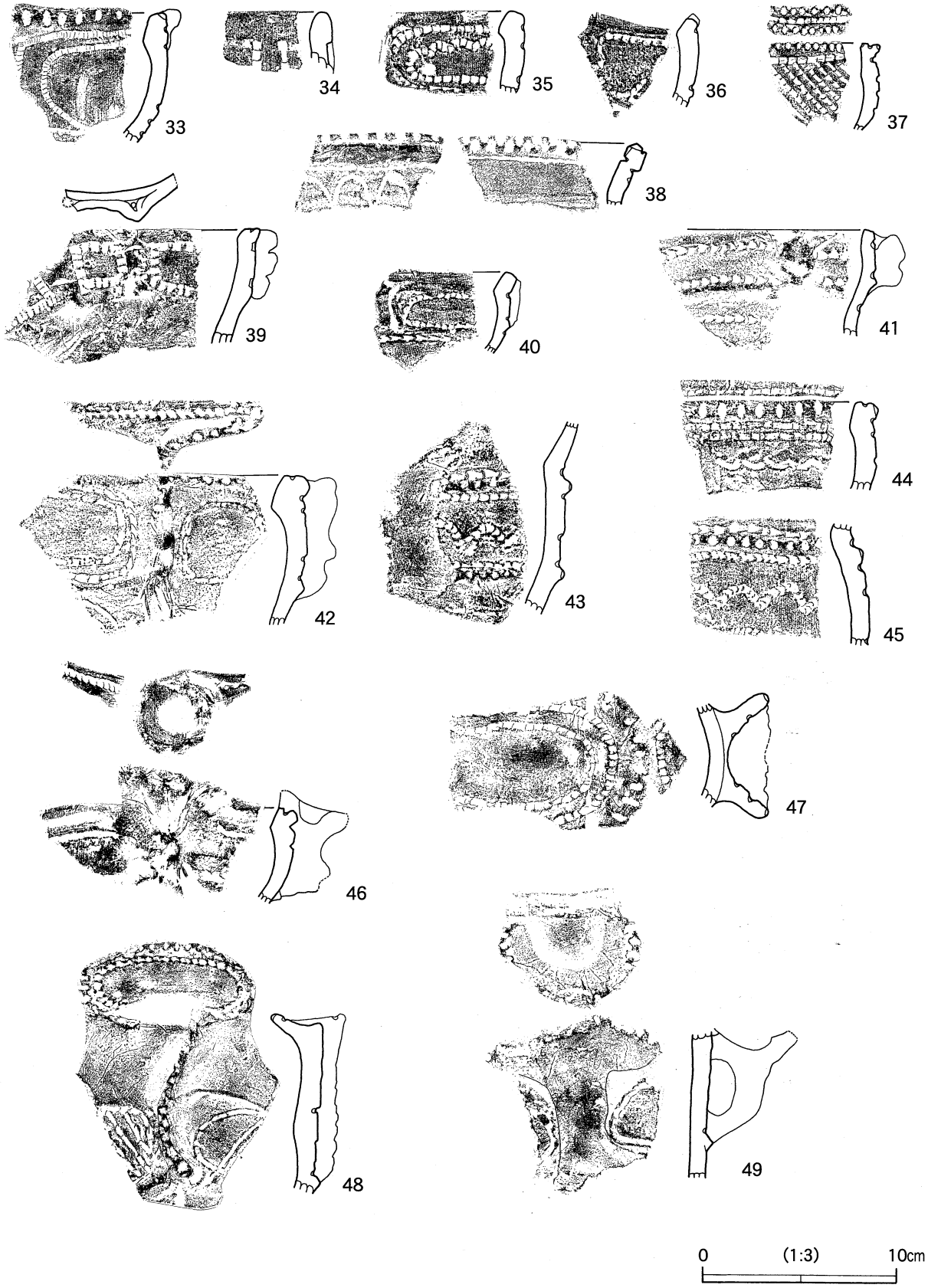
20～22は，前期後半の興津式。20　放射肋のある貝殻の腹縁文を地文とし，半切竹管による平行沈線。（D66-10）。21・22は，細い沈線が平行して引かれ曲線・直線の文様を構成する。（F9-5-1G）。

23以降は，中期の土器。やはり主体は，阿玉台Ⅰb式である。23　波状口縁深鉢。結節沈線文（竹管ⅡA種）と交互刺突文。五領ヶ台式。（F9-6G）。24　浅鉢。口唇上に突起，外面に輪積痕。（F8-65G）。25　波状口縁深鉢。波頂部。左に刻みのある非対称の突起。結節沈線文（ⅠかⅡA種）。26　雲母・石英含む。深鉢胴上部。隆線がL字形に貼付される。25・26は，阿玉台Ⅰa式。（F9-17-3G）。27～32は，非対称の突起・内文・枠状文の未発達などⅠa式の要素をもつ土器である。27　特徴的な突起の内外に結節沈線による文様が描かれている。（P540-4）。28非対称の突起。突起上に円形竹管文。外面は，隆線沿いに結節沈線文（ⅠかⅡA種）。内文は，連続刺突と結節沈線文とで直線と楕円の文様が描かれる。（M11東西-76）。29　雲母含む。特徴的な突起，結節沈線文と小円文による内文。（Ⅰ2-16）。30　小型深鉢。復元口径11.2cm。結節沈線文（ⅡA種）。（F8-85-3G）。31　突起と隆線が連結。結節沈線文（F9-30-1G）。32　細い結節沈線文が蛇行している。（F9-20-4G）。

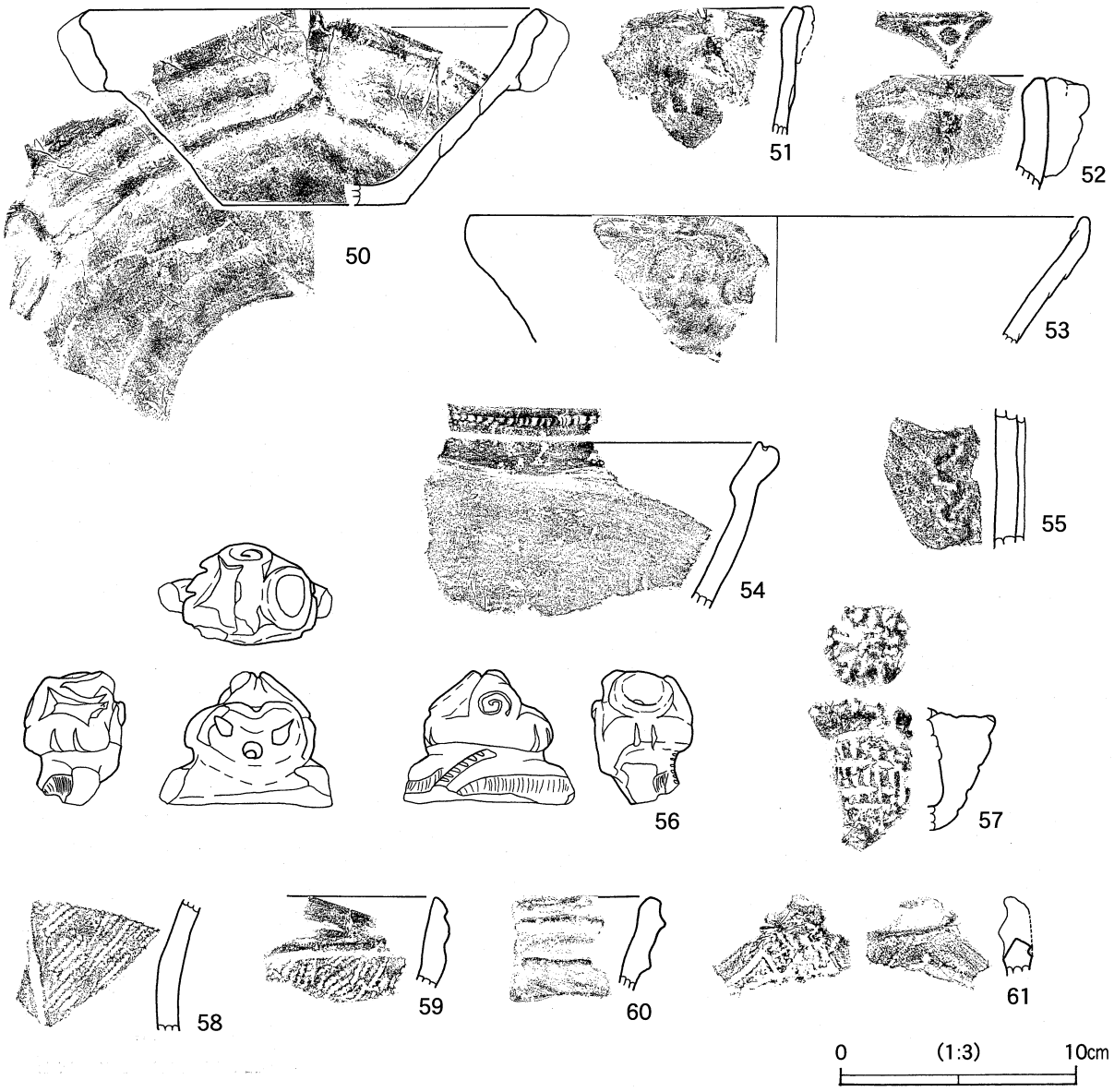
33～50は，阿玉台Ⅰb式。33　結節沈線文（ⅡA種か）。（M20）。34　雲母・石英・長石含む。（D27-173）。35結節沈線文（ⅡA種）。（D27-47）。36　雲母・石英・長石含む。結節沈線文（ⅢA種）。（D27-64）。37　結節沈線文が多用される。（D67一括）。38　復元口径24.8cm。口唇上に交互刺突の刻み。結節沈線文（ⅢA種か）。（F9-20-4G）。39　この結節沈線文は，竹管でなく角棒状のもので施文している。（F9-89G）。40　結節沈線文（ⅡA種）。枠状文。（P420-3）。41　復元口径16cm。この縦長の突起の芯には，粘土棒が無い。（D24-160）。42　復元口径80cmと大きい。雲母多・石英・長石。（M11北西－南東）。43　結節沈線文（ⅡA種）。突起がはずれた痕跡。（F9-20-1G）。44　復元口径31cm。結節沈線文（「A種）。（M12）。45　胴上屈曲部付近。結節沈線文（ⅡA種）。（F9-17-3G）。46　復元口径24cm。雲母・長石。円形突起。（F9-20-1G）。47　隆線が大きく発達。結節沈線文（Ⅱ



第 53 図　その他の遺構及び遺構外出土縄文土器（1）



第 54 図　その他の遺構及び遺構外出土縄文土器（2）



第55図　その他の遺構及び遺構外出土縄文土器（3）

A種)。(M11北西－南東)。48　上面観楕円形の突起。(M12)。49　円形突起と橋状把手が連結。(F9-30-1G)。50　浅鉢。約1/2個体。高さ8.4cm，復元口径19cm，復元底径7.8cm。灰褐色・淡褐色・灰色。雲母多・石英・長石，粗い。縦長突起から連結する隆帯による枠状文。輪積痕，内面ナデ・ミガキ。(M11北西－南東-210，191など)。

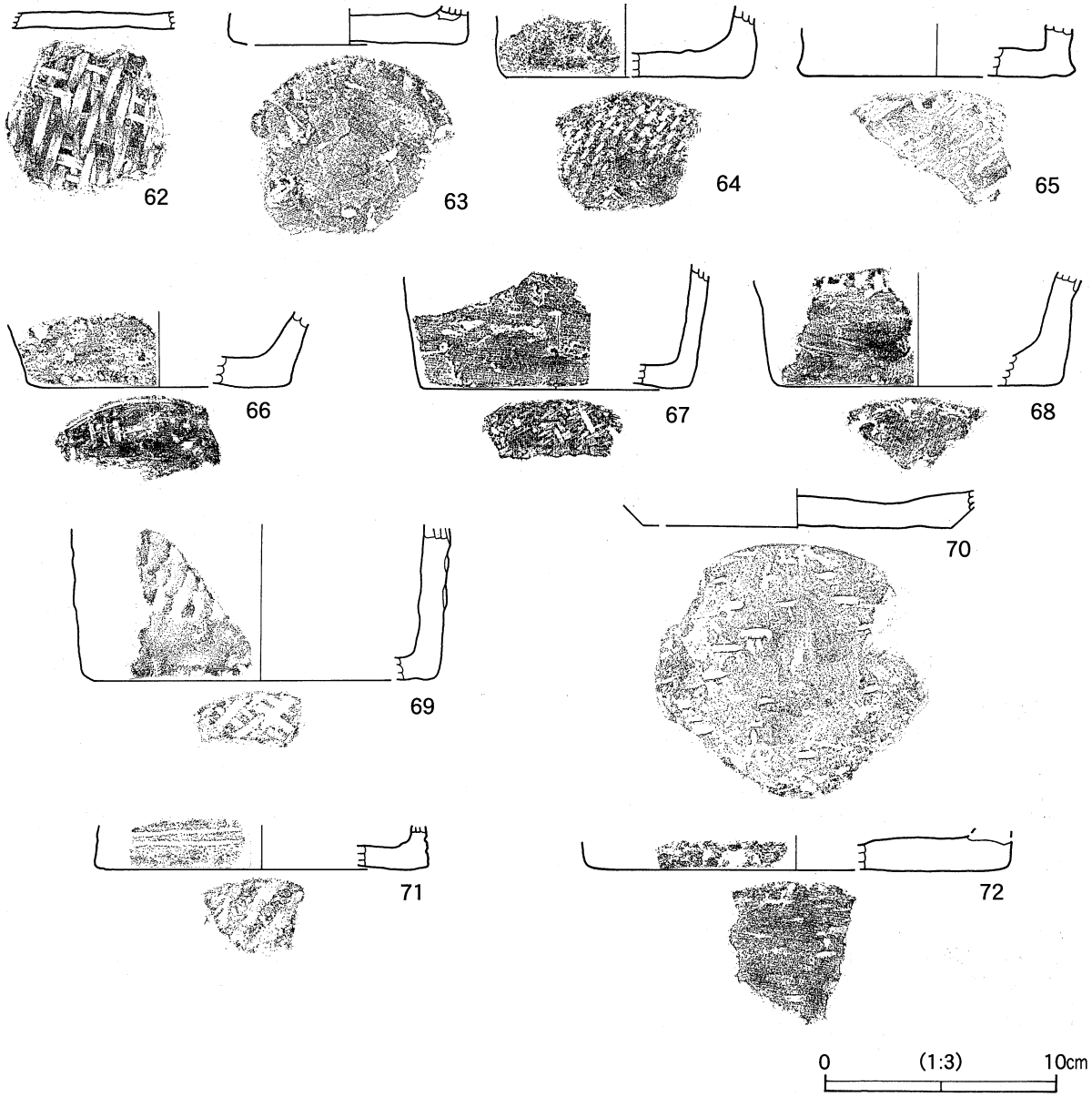
51　縦長の突起（一部欠損)，ひだ状文が変容した爪形文。(M11北西－南東)。52　鉢か。粘土棒を芯とする縦長の突起。(P188)。53　浅鉢。復元口径25.6cm。輪積痕。(F8-85-3G)。54　浅鉢。波状口縁であろう。口唇上に結節沈線文（ⅡA種)。(M12)。

55　縦方向の蛇行隆線。P63で類似品が出土している。(D27)。

56　顔面把手。褐色・灰色。長石，粗い。外面は，渦巻文，刻みのある隆線，爪形文に近い結節沈線文（ⅡA種)。内面に顔面，ハート形の輪郭，窪みで目口を表現，頭部は，円文など。(F9-7G)。

57　把手。刻み，結節沈線が多用される。(D71-456)。

58～61は，阿玉台式以降の縄文土器である。本遺跡においては，極めて希薄な時期となる。しかも60・61は，時期判断のむずかしい資料である。58・59は，加曽利E式，同一個体か。RL縄文施文。58（D50-72)。59（D50-



第56図　その他の遺構及び遺構外出土縄文土器（4）

37)。60　横走する隆起線2条。加曽利E4式か。(F9-20G)。61　波状口縁深鉢か。突起。RL縄文，隆線，沈線が見えるが欠損部があり詳細不明。後期堀之内1式か。(F8-66-1G)。

62～72は，底部。底外面に網代痕が見えるものが多いが，いずれも消そうとしたらしく痕跡が薄くなっている。62　底面のみ。比較的明瞭な網代痕であるが，それでも少し消されている。(F9-20-1G)。63　深鉢。復元底径10.2cm。底外面ミガキ。(M11東西-161)。64　深鉢。復元底径11cm。網代痕。(M11東西-109)。65　深鉢。復元底径12cm。網代痕。(F9-30-1G)。66　深鉢。復元底径11.2cm。網代痕。(F9-20-1G)。67　深鉢。復元底径11.4cm。網代痕。(D27-56)。68　深鉢。復元底径12.3cm。ひだ状文。底外面ミガキ。(F9-20-1G)。69　深鉢。復元底径15.2cm。ひだ状文。網代痕。(F9-30-1G)。70　浅鉢か。復元底径13.2cm。雲母。網代痕まばら。(M11東西-166)。71　深鉢。復元底径14.2cm。雲母。横方向の浅い沈線が2条巡る。網代痕はほとんど消えている。(F9-30-1G)。72　深鉢。復元底径18cm。底外面ミガキだが，網代痕を消しているのであろう。(M11東西-180)。

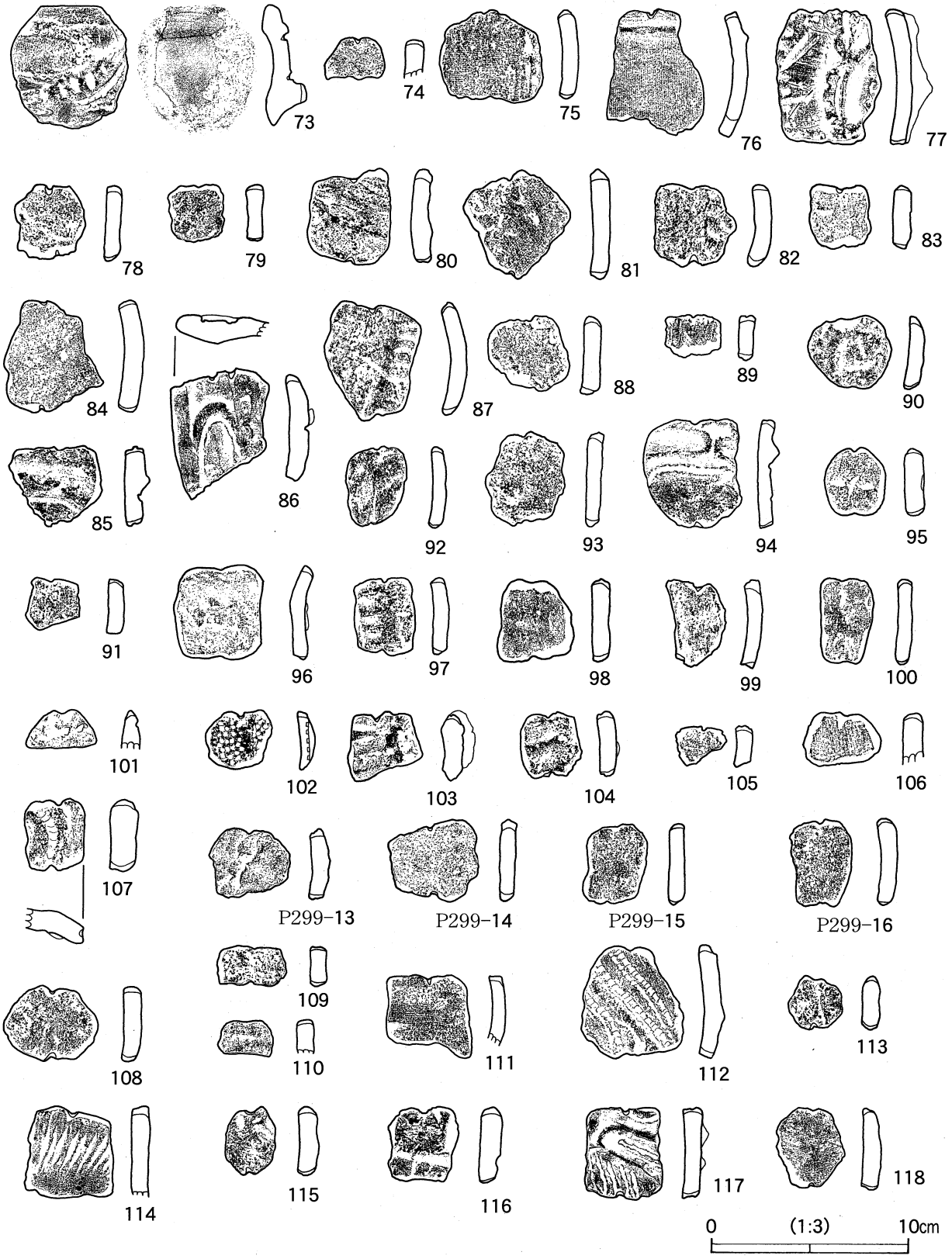
土製円盤（第57図）

73　口縁部。縁辺を打ち欠いて円形にしている。51.9ｇ。外面褐色，内面暗褐色。雲母・長石・石英。円形竹管による連続刺突，結節沈線文，押圧のある隆線。（Ｐ538-1）。なお，この他早期撚糸文系土器の土製円盤も１点出土している（第53図18）。

土器片錘（第57図）

土器片錘は，原則として，「No.　形状。部位。縁辺（割れ口）の調整。溝の数と状態。重さ。文様などの特徴。(取り上げNo.)。」を記載したが，適宜項目を省略している。

74　半欠。平滑。溝一箇所明確。(7.3ｇ)。無文。（D16-209）。75　五角形。やや平滑。溝一対不明確。27.2ｇ。（Ｉ３-20）。76　不定形。やや平滑。溝一対，明確と不明確。29.6ｇ。隆線。（Ｉ２）。77　長方形。打ち欠き。溝一対やや明確。51.7ｇ。阿玉台式。（Ｉ３）。78　楕円形。打ち欠き。溝一対やや明確。13.3ｇ。雲母。（Ｉ３-110）。79　正方形。打ち欠き。溝一対不明確。9ｇ。雲母。阿玉台式。（Ｉ３）。80　長方形。やや平滑。溝一対明確。27.3ｇ。（Ｉ３-167）。81　菱形。打ち欠き。溝一対やや明確。26.4ｇ。雲母・石英・長石。（Ｉ３-69）。82　五角形。打ち欠き。溝一対明確。19.2ｇ。ひだ状文。阿玉台式。（D19-38）。83　正方形。やや平滑。溝一対やや明確。13.4ｇ。（D22-3）。84　五角形。打ち欠き。溝一対明確。35.4ｇ。（D23-35）。85　楕円形。打ち欠き。溝一対やや明確。22.9ｇ。雲母。隆線，沈線。阿玉台式。（D23-483）。86　方形。口縁部。打ち欠き。溝一箇所やや明確。38.8ｇ。雲母・石英。隆線，沈線など。阿玉台式。（D23-220）。87　五角形。やや平滑。溝一対やや明確。29.7ｇ。雲母など。爪形文。阿玉台式。（D24-60）。88　楕円形。平滑。溝一対明確。17.3ｇ。雲母。沈線。阿玉台式。（D34-420）。89　長方形。打ち欠き。溝一対明確と不明確。7.4ｇ。雲母。阿玉台式。（D35-64）。90　円形。平滑。溝一対不明確。15ｇ。雲母など。阿玉台式。（D38-191）。91　五角形。打ち欠き。溝一箇所明確。7.1ｇ。（D35）。92　楕円形。やや平滑。溝一対やや明確。10.7ｇ。（D33-55）。93　楕円形。やや平滑。溝一対やや明確。17.9ｇ。雲母。阿玉台式。（D35-1）。94　楕円形。やや平滑。溝一対明確。31.7ｇ。雲母。隆線，結節沈線文。阿玉台式。（D38-74）。95　楕円形。平滑。溝一対明確。13ｇ。（D55-68）。96　長方形。やや平滑。溝一対やや明確。24.5ｇ。雲母など。ひだ状文。阿玉台式。（D61-73）。97　長方形。打ち欠き。溝一対明確。13.2ｇ。雲母など。ひだ状文。阿玉台式。（D65-45）。98　方形。やや平滑。溝一対明確。21.7ｇ。ミガキ。（D67-134）。99　楕円形。平滑。溝一対明確と不明確。11.7ｇ。雲母など。阿玉台式。（D68-32）。100　長方形。やや平滑。溝一対やや明確。10.8ｇ。雲母。阿玉台式。（D72-96）。101　楕円形。半欠。平滑。溝一箇所明確。6.6ｇ。刺突文。阿玉台式。（D72-590）。102　楕円形。一部欠。やや平滑。溝一箇所明確。8.4ｇ。小円形刺突文，隆線。狢沢式。（M11東西-92）。103　方形。半欠か。打ち欠き。溝一箇所明確。19.9ｇ。縦長の突起。阿玉台式。（M12）。104　楕円形。やや平滑。溝一対明確。12.5ｇ。隆線。阿玉台式。（D71-359）。105　半欠。やや平滑。溝一箇所明確。4.9ｇ。雲母。（D71）。106　楕円形。半欠。やや平滑。溝一箇所明確。14.4ｇ。（D72-109）。107　長方形。口縁部。やや平滑。溝一対明確。18.5ｇ。隆線，結節沈線文（ⅡA種）。阿玉台式。（D71-238）。Ｐ299-13（Ｐ299の遺物No.は，第239図による。以下同じ。）楕円形。口縁部。やや平滑。溝一対やや明確。15.4ｇ。ひだ状文。阿玉台式。(10)。Ｐ299-14　方形。やや平滑。溝一対明確。19.6ｇ。(11)。Ｐ299-15　長方形。やや平滑。溝一対不明確。15.2ｇ。雲母など。阿玉台式。(51)。Ｐ299-16　長方形。打ち欠き。溝一対明確と不明確。16.1ｇ。阿玉台式。(149)。109　長方形。打ち欠き。短軸溝一対やや明確。8.4ｇ。（Ｐ449-2）。108　楕円形。平滑。溝一対明確。19.6ｇ。雲母など。阿玉台式。（F8-77-3Ｇ）。110　半欠。やや平滑。溝一箇所やや明確。4.8ｇ。（E8-100-3Ｇ）。111　半欠。打ち欠き。溝一箇所明確。16ｇ。（F8-77-3Ｇ）。



第 57 図　その他の遺構及び遺構外出土土製円盤・土器片錘

112　楕円形。やや平滑。溝一対明確。31.5ｇ。雲母。隆線と結節沈線文。(F8-81-3Ｇ)。113　円形。平滑。溝一対やや明確。8.2ｇ。(F9-36Ｇ)。114　正方形。打ち欠き。溝一対明確と不明確。24.5ｇ。爪形文。(F8-81-3Ｇ)。115　楕円形。平滑。溝一対明確。11ｇ。ひだ状文か。阿玉台式か。(F9-9-2Ｇ)。116　長方形。やや平滑。溝一対不明確。16.3ｇ。沈線。阿玉台式。(F9-26-2Ｇ)。117　長方形。打ち欠き。溝一対やや明確。28.6ｇ。隆線，結節沈線文。阿玉台式。(F9-30-1Ｇ)。118　楕円形。打ち欠き。溝一対明確。16.2ｇ。(F9-30-1Ｇ)。

石器・石製品（第58図～60図）

計測値は，長さ×幅×厚さ（単位：mm），重さである。

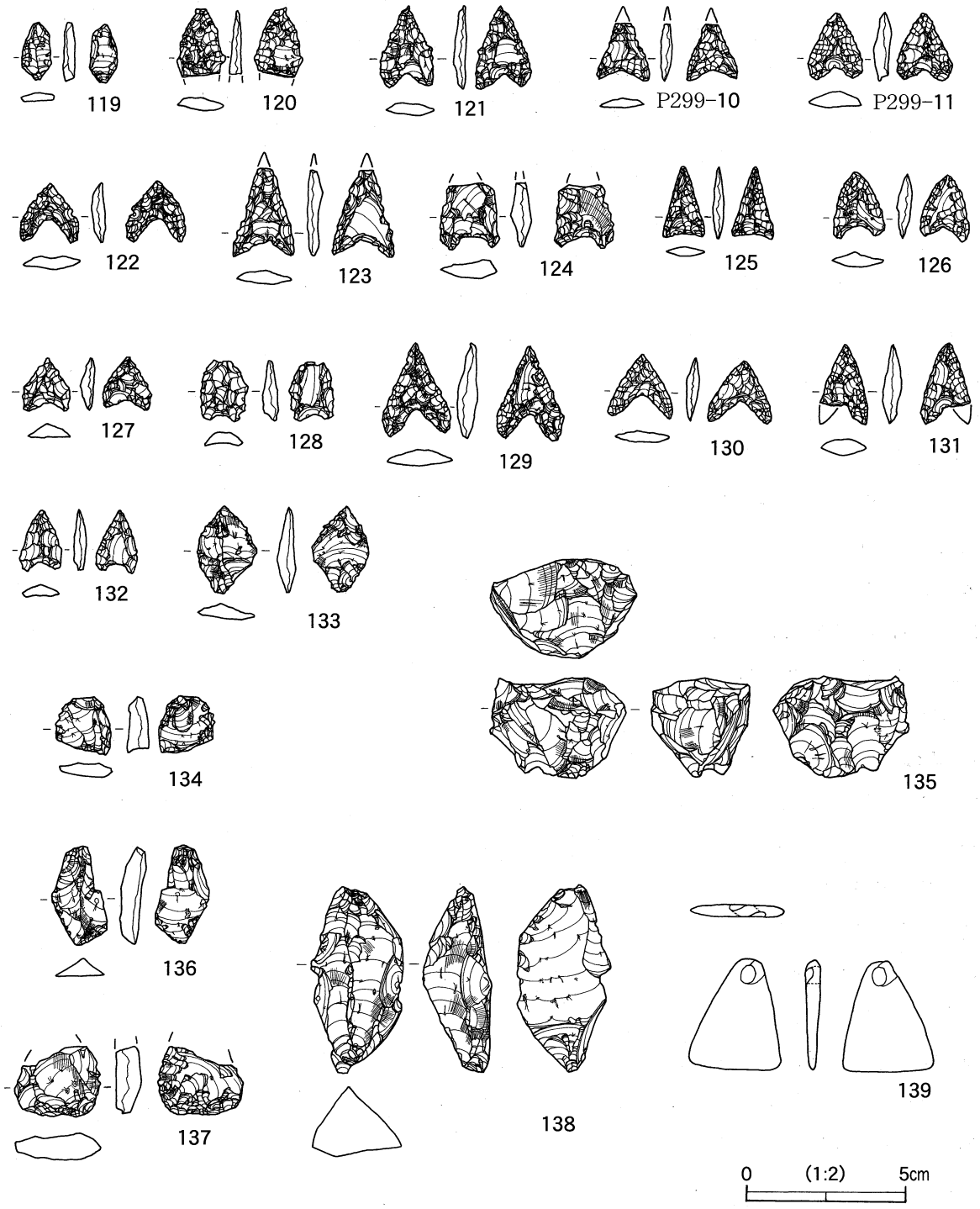
119　石鏃。18.21×9.1×4.1，0.66ｇ。黒曜石（神津島産，以下の黒曜石もすべて同じ)。(F9-18-2Ｇ)。120　石鏃。21.32×14.28×4.84，1.2ｇ。黒曜石。基部欠損。(F9-28-1Ｇ)。121　石鏃。25.34×16.81×3.68，1.24ｇ。黒曜石。(F9-15-3Ｇ)。Ｐ299-10（Ｐ299の遺物No.は，第239図による。以下同じ。）石鏃。17.5×16.2×3.26，0.74ｇ。チャート。先端部欠損。(17)。Ｐ299-11　石鏃。20.5×16.76×4.7，1.18ｇ。黒曜石。(119)。122　石鏃。18.91×18.03×3.51，0.74ｇ。黒曜石。Ｈ７のP9出土。(Ｐ472-7)。123　石鏃。27.11×18.6×4.02，1.44ｇ。チャート。先端部欠損。(Ｄ19-60)。124　石鏃。19.99×17.62×5.52，2.08ｇ。黒曜石。先端部欠損。(M11東西-153)。125　石鏃。21.92×12.72×3.4，0.66ｇ。チャート。(Ｄ24-107)。126　石鏃。21.17×15.8×4.5，1.2ｇ。黒曜石。(Ｄ70-83)。127　石鏃。16.02×14.35×4.96，0.7ｇ。黒曜石。(Ｄ71-542)。128　石鏃。18.66×13.91×4.81，1.24ｇ。黒曜石。被熱。(Ｐ518-2)。129　石鏃。28.98×20.39×4.94，1.72ｇ。黒曜石。(F9-30Ｇ表面採集)。130　石鏃。19.84×20.01×3.57，0.68ｇ。チャート。(表面採集)。131　石鏃。25.76×14.83×5.0，1.42ｇ。頁岩。基部の一部欠損。(表面採集)。132　石鏃。18.79×12.63×3.26，0.7ｇ。流紋岩。(M18)。133　石鏃。26.98×18.62×4.98，1.58ｇ。黒曜石。(Ｉ２-27)。

134　二次加工のある剥片。17.5×17.25×5.54，2.0ｇ。黒曜石。(Ｄ54-96)。135　石核。31.81×44.04×31.31，43.02ｇ。黒曜石。Ｐ555風倒木痕から出土。(48)。136　剥片。31.22×14.9×5.7，2.64ｇ。黒曜石。(F9-28-1Ｇ)。137　剥片。21.33×27.02×7.85，4.74ｇ。黒曜石。欠損。(Ｄ37-87)。138　剥片。58.62×29.3×20.19，25.42ｇ。黒曜石。(F9-37-2Ｇ)。

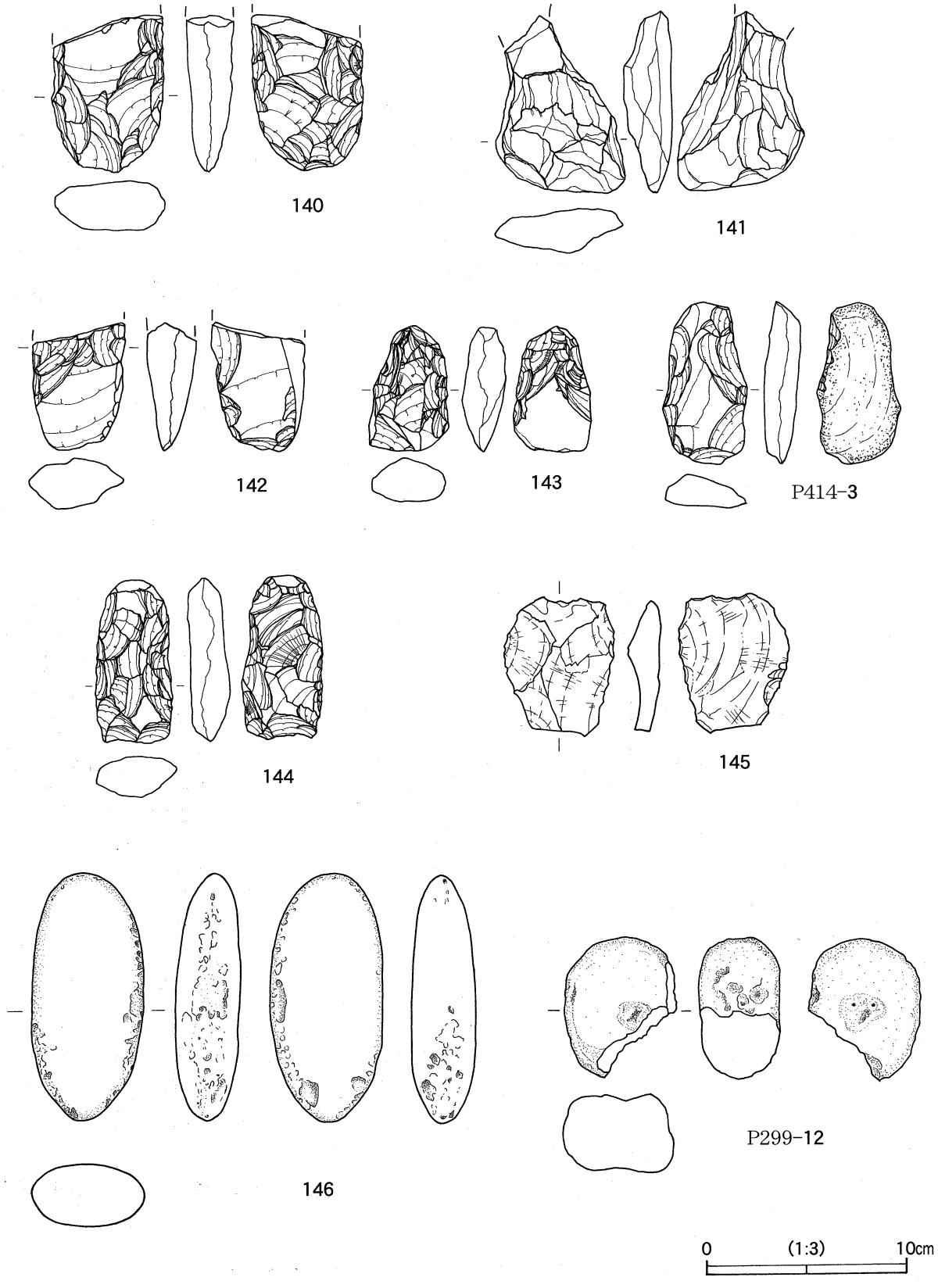
139　垂飾。35×29×4.5，6.7ｇ。斜めに穿孔されている。(Ｄ21-877)。

140　打製石斧。72.8×57.25×22.69，93ｇ。ホルンフェルス。欠損。(Ｄ21-521，1376)。141　打製石斧。90.09×60.45×26.08，138ｇ。ホルンフェルス。欠損。(Ｄ23-160)。142　打製石斧。58.34×48.03×24，88ｇ。ホルンフェルス。欠損。(Ｄ26-29)。143　打製石斧。63.58×40.3×21.63，63ｇ。チャート。(Ｄ72-551)。Ｐ414-３　打製石斧。82.03×41.56×15.64，65ｇ。ホルンフェルス。Ｐ414は縄文土坑。第42図参照。(29)。144　打製石斧。81.86×40.76×21.03，89.5ｇ。ホルンフェルス。(M11北西-南東-下層)。145　打製石斧。69×56×16，52.9ｇ。欠損。Ｐ386円形土坑出土。第150図参照。(17)。

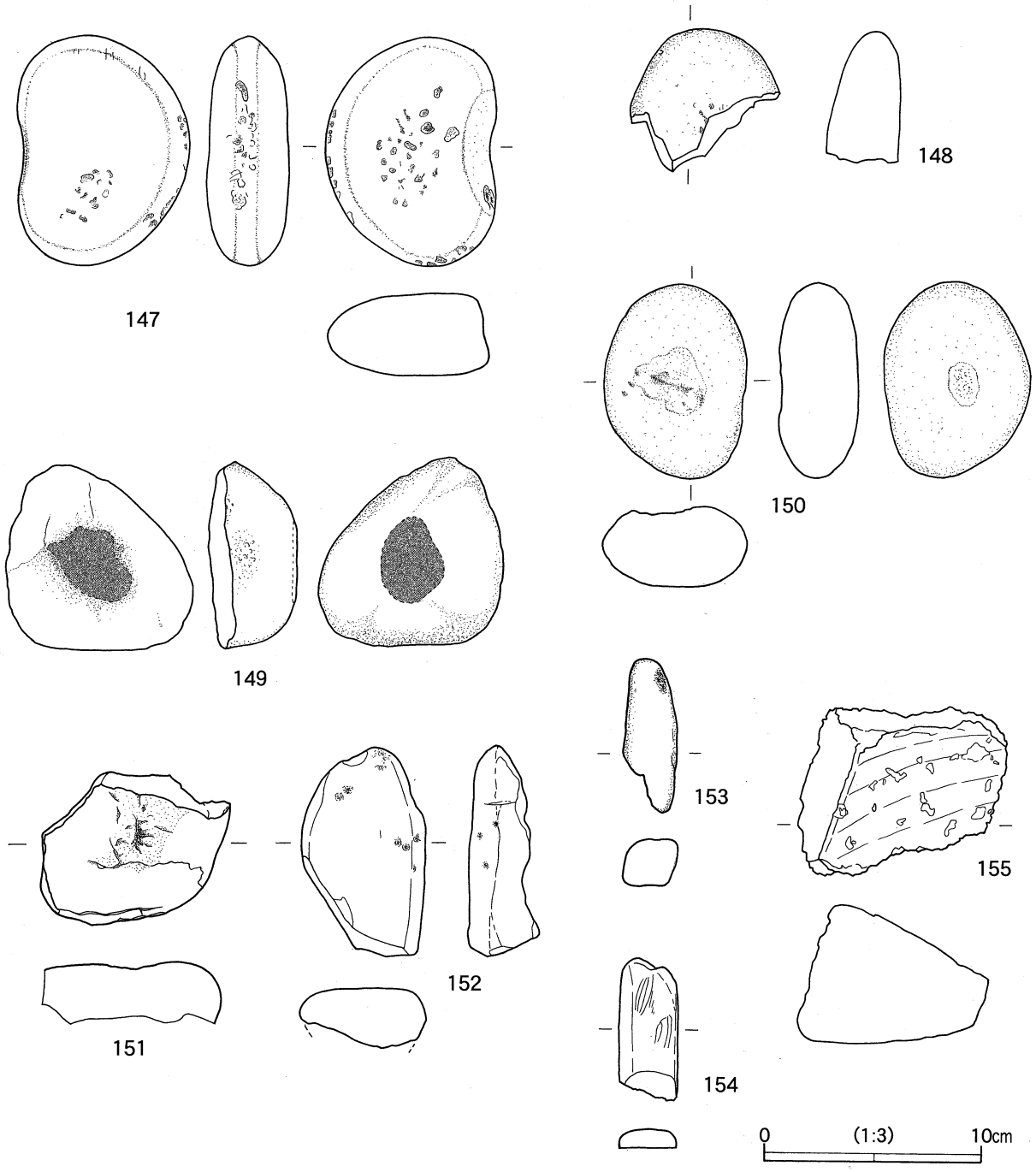
146　敲石。126×57×33，337.1ｇ。側面に敲打痕が観察される。(M19-1)。Ｐ299-12　磨石。一部欠。69×56×41，189.4ｇ。窪みあり。側面に敲打痕が観察される。(78)。147　敲石。107×76×38，455.5ｇ。表裏側面に敲打痕が観察される。また，黒色の付着物がある。(Ｄ43-180)。148　磨石。欠損。64×67×33，156.3ｇ。一部に敲打痕が観察される。焼けて赤化。(F9-40Ｇ)。150　敲石。90×66×37，329.2ｇ。一面に窪み，反対面に敲打痕が観察される。(Ｄ46-19)。151　敲石。欠損。84×71×29，265.5ｇ。一面に敲打痕が観察される。(Ｄ72-543)。152　敲石。欠損。98×58×27，227.4ｇ。不明瞭だが敲打痕と考えられる。(M11東西-125)。153　敲石。72×25×21，55.8ｇ。先端に敲打痕がある。(Ｄ21-48)。



第 58 図　その他の遺構及び遺構外出土　石器（1）・石製品



第 59 図　その他の遺構及び遺構外出土石器（2）

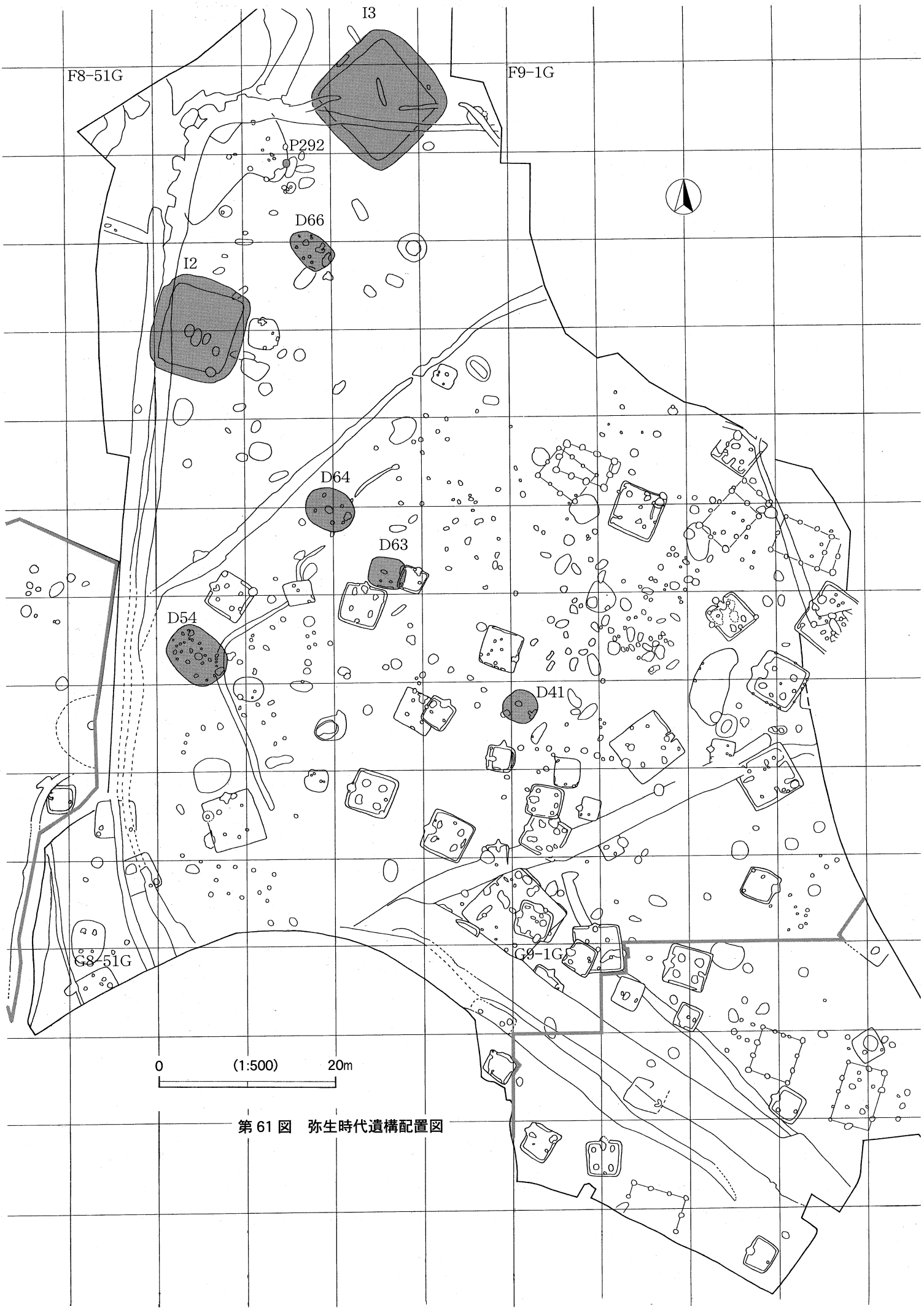


第 60 図　その他の遺構及び遺構外出土石器（3）

149　焼礫。但し磨ったような痕跡がある。87×84×41，357.5 g。自然面と割れ口に磨ったような痕跡がある。焼けて赤化。(F9-30-1 G)。

154　砥石か。61×27×9，25.5 g。一面に磨いたような痕跡がある。(M11東西-176)。

155　石皿。欠損。92×77×64，478 g。(F9-30-1 G)。



第 61 図　弥生時代遺構配置図

3　弥生時代

今回の調査で得られた弥生時代の遺構・遺物は，土器から見て後期中頃に属するものと判断される。印旛沼沿岸地域に見られる附加条１種縄文を施文した土器群が主体をなしている。住居跡５軒（D41，D54，D63，D64，D66）と方形周溝状遺構２基（Ｉ２，Ｉ３），土坑１基（P292）を調査した（第61図）。この他，弥生土器のみを出土したP268土坑や，覆土下層に弥生土器の接合可能な破片が出土したP299土坑などがあったが，弥生時代に属するという確証を得られなかった。

（１）竪穴住居跡

D41住居跡（第62図～63図）

位置　F9-8G～F8-98G。**平面形態**　円形に近い隅丸方形。**規模**　北西－南東方向3.77m，北東－南西方向3.64m。深さ48cm。**覆土**　中央部にしまりのある黒色系の土が厚く堆積。以下は黄褐色・黄橙色系の土。全体に径１mm前後の黄色スコリアを含む。７・10～12以外はしまりがある。１：7.5YR1.7/1（黒色土）。２：7.5YR3/1（黒褐色土）。径１mm焼土粒子少量含む。３：7.5YR4/3（褐色土）。４：7.5YR3/3（暗褐色土）。５：7.5YR5/3（にぶい褐色土）。６：7.5YR5/2（灰褐色土）。７：7.5YR5/8（明褐色土）。しまりやや欠ける。黄スコ多量含む。８：7.5YR5/3（にぶい褐色土）。９：7.5YR4/2（灰褐色土）。10：7.5YR6/6（橙色土）。しまりやや欠ける。黄スコ多量含む。11：7.5YR7/8（黄橙色土）。しまりやや欠ける。径１～５　の黄スコ多量含む。12：7.5YR8/8（黄橙色土）。しまりやや欠ける。径１～５mmの黄スコ・ロームブロック多量含む。13：ZHB。**壁面**　床から丸みをもって立ち上がる。シミが多く不明瞭。**床面**　平坦な床。暗褐色土や褐色土が斑点状に入り込む。硬化面は，炉跡周辺とP2の周囲に分布。移植鏝で削れる程度の硬さ。**出入口**　P1・P2が入り口施設関連と推定される。P1は，壁際の溝状の穴。P2は，斜め方向に掘られた穴で，覆土に柱痕のような土が認められた。P2覆土は，１：暗褐色土。黄スコ含む。２：暗黄褐色土。しまりあり。３：黄褐色土。しまりあり。４：褐色土。黄褐色土混じり。しまり弱い。柱痕。５：黄褐色土。しまりあり。**炉跡**　竪穴部中央のやや北西寄りで検出。覆土は焼土を含む暗褐色土・褐色土。火床が認められた。

遺物　総数143点。うち少なくとも67点は弥生土器。主要な弥生土器は，床面近くの黄橙色土から出土。平面的にはP2の北西40cmのところや炉跡にまとまっていた。他に軽石１点（図版29），焼成粘土塊が炉内から６点出土。

１　甕。頸部～胴中部。復元頸部径15cm，復元胴部最大径22.6cm。頸部上半は，無文帯，下半は，Ｓ字状結節文帯。胴部は，附加条縄文ＬＲ＋２Ｒ。(52，14，49，51，57，59～70，72，74，75，89，95，108)。２～６は，複合口縁部小片。２・４・６の口唇上には，縄文か撚糸文が施文されている。２～４（一括）。５（71），６（93，99)。７　底部。底径5.9cm。底外面に木葉痕。(42，40，77)。８　附加条縄文ＬＲ＋２Ｒ（39)。９（43)。

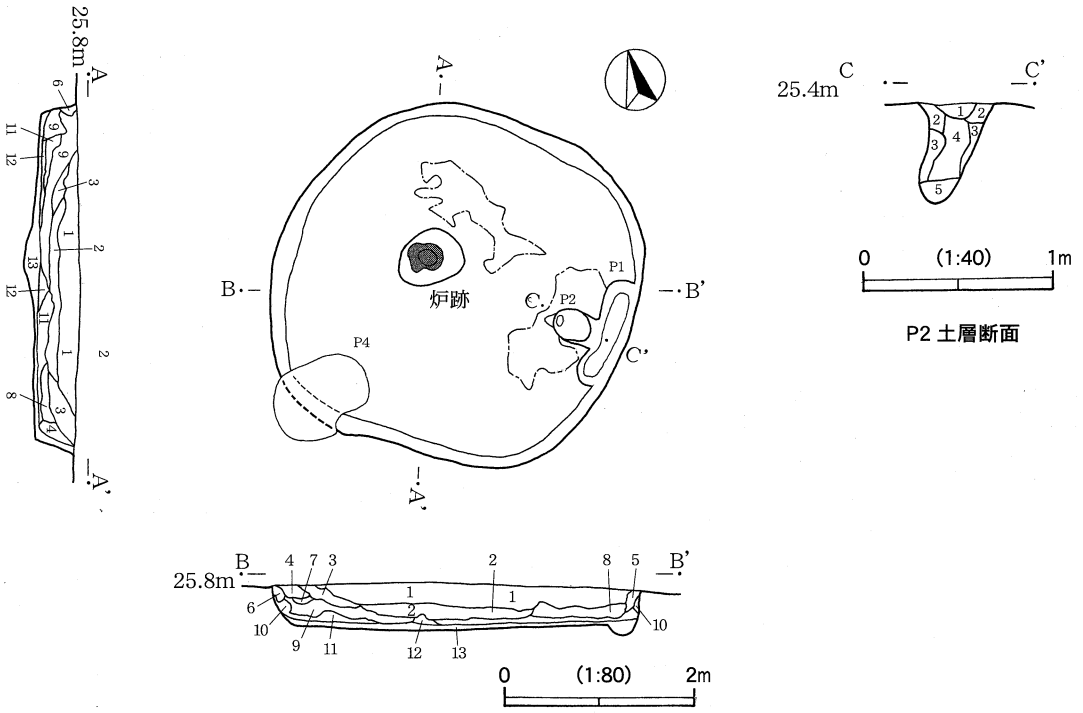
10　土製紡錘車。完形。最大径49mm，最大厚13mm。重さ25.5ｇ。孔径６mm前後。文様無し。(26)。

11　板状の石。91×72×25，241.8ｇ。砂岩。窪みが２箇所ある。類似の石材が弥生時代住居D54・D64から出土している。また同じような窪みをもつ例は，川崎山遺跡ｄ地点３Ｄ住居跡にある。

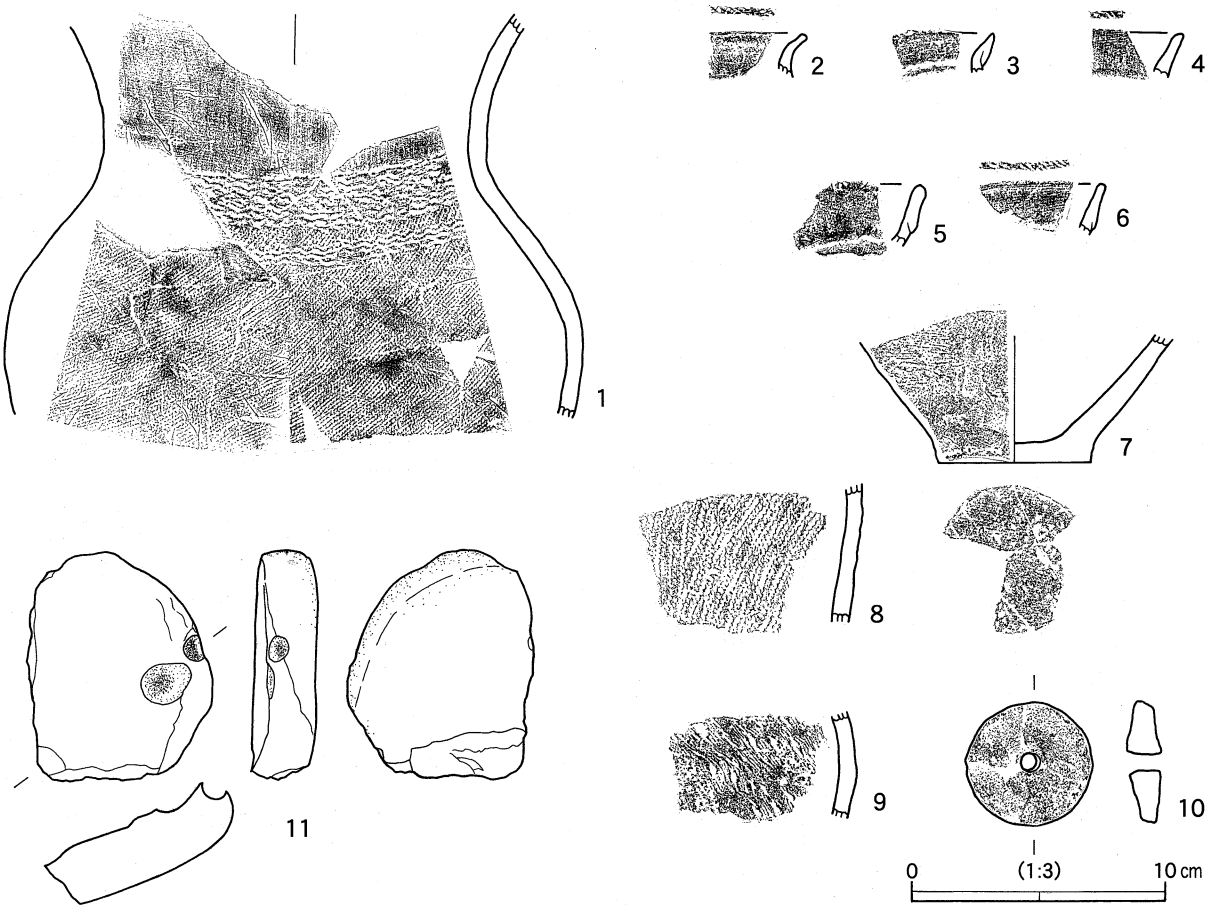
図示しなかったが，焼成粘土塊が出土している。土玉状のものは，最大径12mmの球形，0.9ｇ。(104)。他に扁平なものや不定形など。大きさは10mm前後（図版29)。

D54住居跡（第64図～66図）

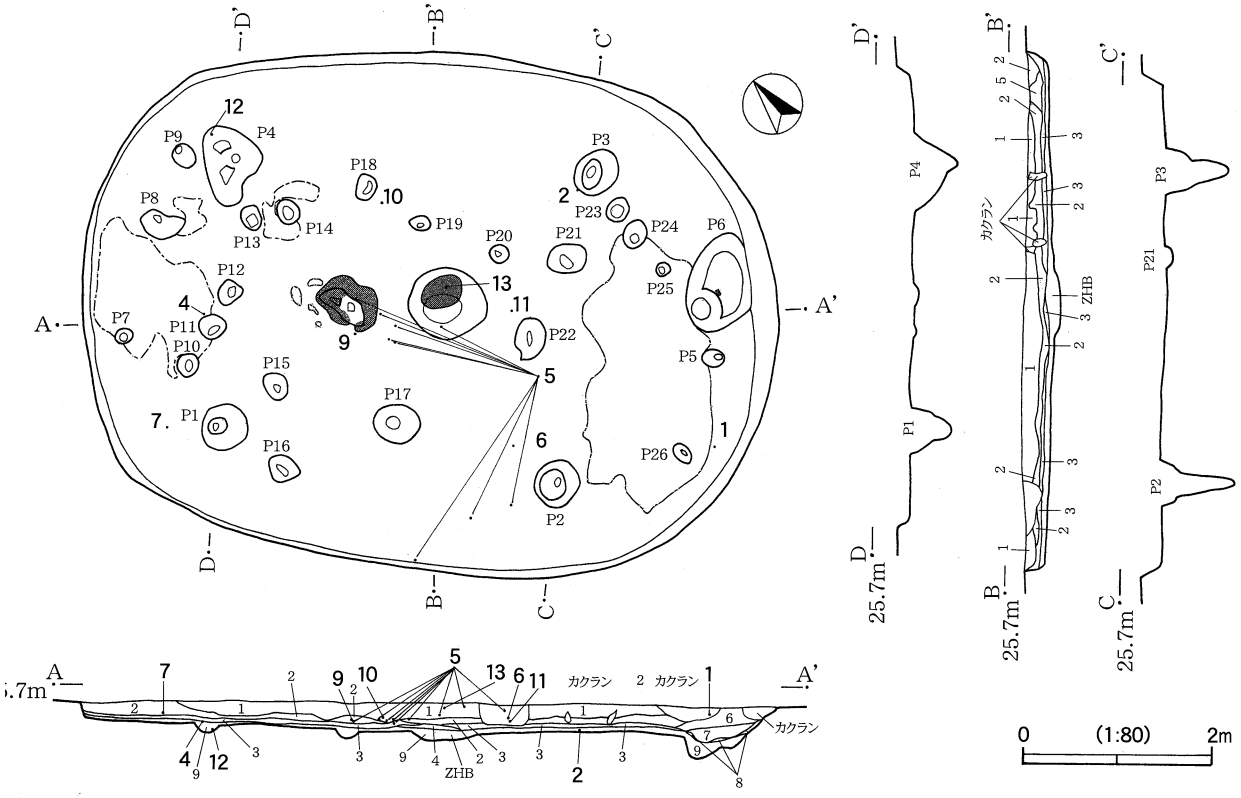
位置　F8-67G。**平面形態**　北西－南東方向に長い楕円形。**規模**　北西－南東方向7.3m，北東－南西方向5.5m。深さ20～32cm。**覆土**　黒色土が比較的厚く堆積。全体的にしまりがある。１：7.5YR1.7/1（黒色土）。２：7.5YR3/3（暗褐色土）。３：7.5YR5/8（明褐色土）。４：7.5YR2/2（黒褐色土）。５：7.5YR2/3（極暗褐色土）。し



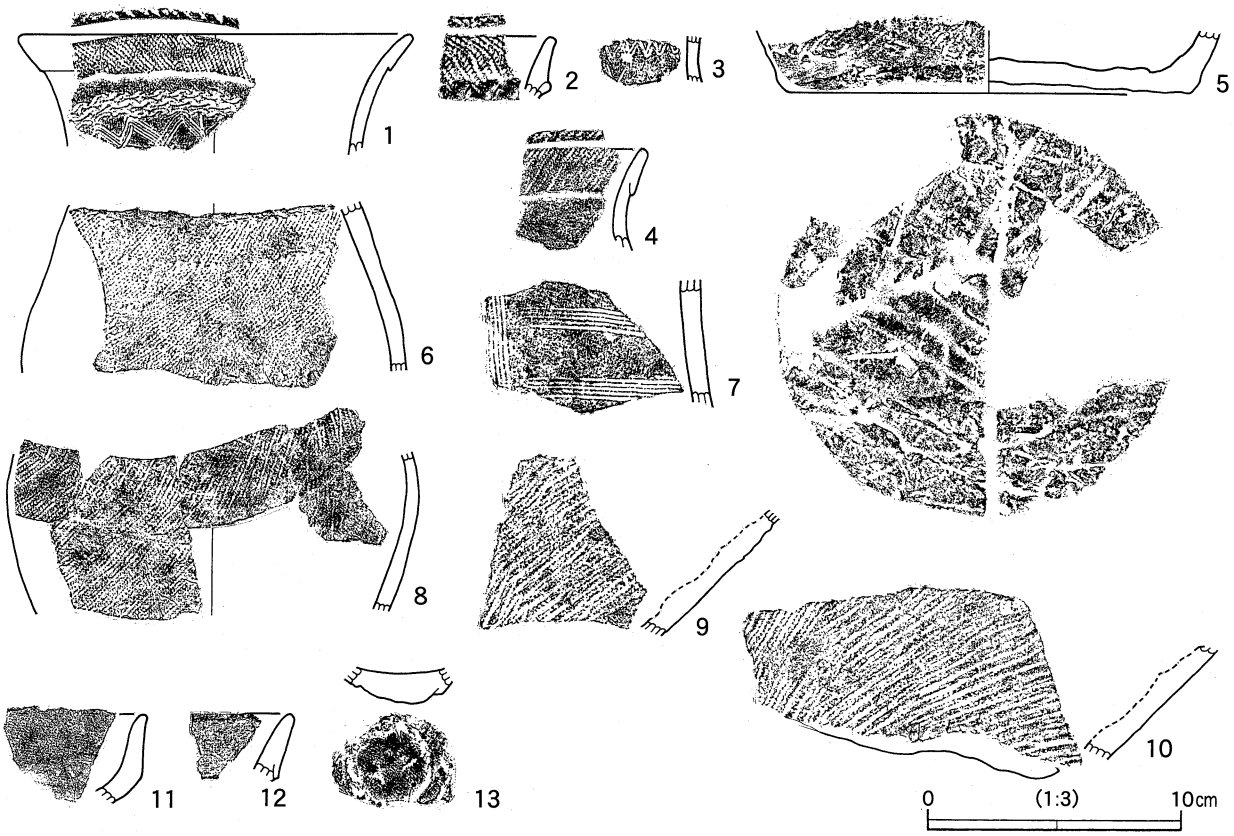
第 62 図　D41 住居跡実測図



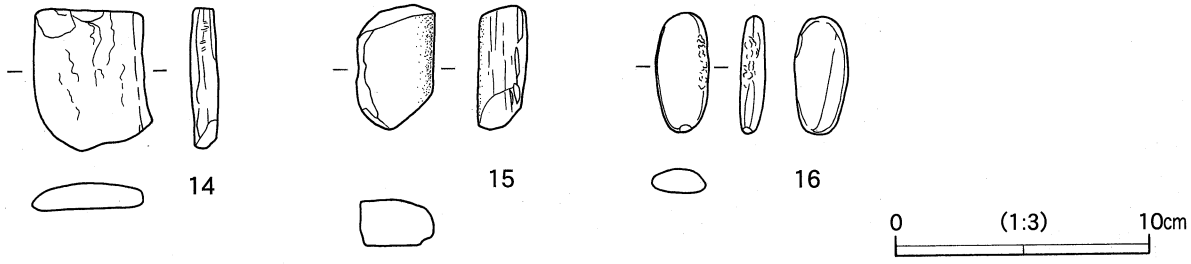
第 63 図　D41 住居跡出土遺物



第 64 図　D54 住居跡実測図



第 65 図　D54 住居跡出土遺物（1）



第66図　D54住居跡出土遺物（2）

まりやや欠ける。6：7.5YR3/3（暗褐色土）。7：7.5YR2/1（黒色土）。8：7.5YR5/8（明褐色土）。7・8は，P6覆土。**壁面**　やや丸みをもって立ち上がる。**床面**　ほとんどがソフトロームを主体とした柔らかい床で，捉えるのが難しかった。硬化面は，中央部以外に認められた。**炉跡**　2箇所確認した。炉1は，焼土を伴う黒褐色土を覆土とし，周囲の床に焼けて赤化した部分があった。炉2は，焼土を伴う暗褐色～黒褐色土を覆土とし，底面に火床があった。**柱穴**　主柱穴はP1～P4の4基と考えられる。深さは，P1が44cm，P2が78 cm，P3が66cm，P4が46cm。**貯蔵穴**　P6が相当か。深さ12cmの浅い底面と深さ25cmのピット状の底面部分とがある。炭化材が1点出土。**出入口**　P5が相当か。深さ12cm。**その他のピット**　上記以外に20基確認した。浅いものが多い。

遺物　110点以上出土。うち少なくとも89点は弥生土器。軽石1点。

1　甕。複合口縁部。復元口径15.4cm。赤褐色。口唇上に縄文。複合部は，附加条ＲＬ＋２Ｌ。頸部Ｓ字状結節文，4本単位の櫛描波状文。(36)。3　頸部，櫛描波状文。2　甕。複合口縁部。口唇上に縄文，附加条ＲＬ＋２Ｌか。複合部は，附加条ＲＬ＋２Ｌ。複合部の下端に刻み。(99)。(一括)。4　甕。複合口縁部。口唇上，及び複合部，不明瞭。附加条ＬＲ＋２Ｒか。(77，一括)。

5　底部。底径16cm。底外面木葉痕。中脈2本が交差しており，2枚分であろう。外面縄文不明瞭。内面剥離。(60，61，44，53，67，90，91，98，45)。

7　復元頸部径13cm。5本単位の櫛描文。(68)。6　復元頸部径11.4cm。復元胴部最大径15cm。頸部は，無文か。胴部は，附加条ＬＲ＋２Ｒ。(42)。8　復元胴部最大径16cm。附加条ＬＲ＋２Ｒ。(4，5，6，一括)。9　外面黒褐色，内面淡橙褐色。径5　の長石や橙色・灰色粒子を含む。附加条ＬＲ＋２Ｒ。附加縄が深い。内面剥離。かなり大ぶりの個体であろう。(63)。10　9と同様。(18)。

11～13は，弥生土器よりも新しい時期のものであろう。11　坏口縁部。黒色。ナデ・ミガキ。(94)。12　壺か。複合口縁部。橙色。ナデ。P4内出土。(101)。13　高坏の坏部と脚部の接点か。(22)。

14～16は，D41の11と同様の石で，灰色。砂岩であろう。14・15には，特に加工の痕跡を見出せない。14　55×44×10，40.7ｇ。板状。(107)。15　49×30×19，38.6ｇ。(35)。16　46×21×9，11.4ｇ。敲打痕や磨ったような痕跡が認められる。(43)。

D63住居跡（第67図～69図）

位置　F8-86G。**平面形態**　やや北西－南東方向に長い隅丸方形。**規模**　北西－南東方向4.6m，北東－南西方向3.55m。深さ20cm。**覆土**　黒色系の土が主体。5以外はしまりがある。1：7.5YR1.7/1（黒色土）。2：7.5YR3/1（黒褐色土）。3：7.5YR4/4（褐色土）。4：7.7YR4/4（褐色土）。5：7.5YR2/3（極暗褐色土）。しまりやや欠ける。**壁面**　東壁の平面形は湾曲。高さは13cm以下。西壁はわずかな段差のみ残る。**床面**　ロームを主とする平坦な床面。炉の東側に土間状の硬化面がある。硬化面の北側は暗褐色土が主体。**壁溝**　南壁の一部に認められた。**炉跡**　覆土は，黒褐色土・暗褐色土・褐色土で，焼土粒子は極少量。火床は発達していない。**貯蔵穴・出入口**　P4が相当するか。底面に段差あり，最深部は30cm。覆土は，暗褐色土・褐色土。　**ピット**　P1は深さ14cm，P2は深さ10cmと小穴。

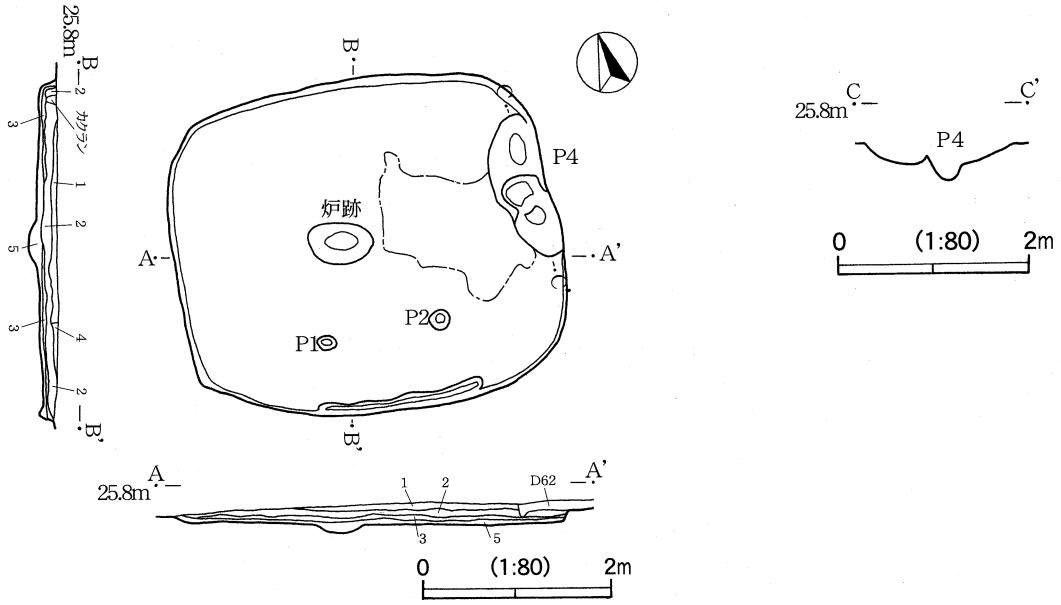
遺物　189点以上出土。うち少なくとも179点は弥生土器。

1　甕。口縁部～胴下部。復元口径15cm。復元頸部径12.3cm。復元胴部最大径14.8cm。灰褐色など。雲母など。口唇上縄文。複合部無文。頸部S字結節文。以下附加条LR＋2R。（1～3，5，6，9，21，133，165，178，184，一括）。2　複合口縁部。口唇上無節縄文の押圧か。複合部無文。頸部Z字結節文。（一括）。

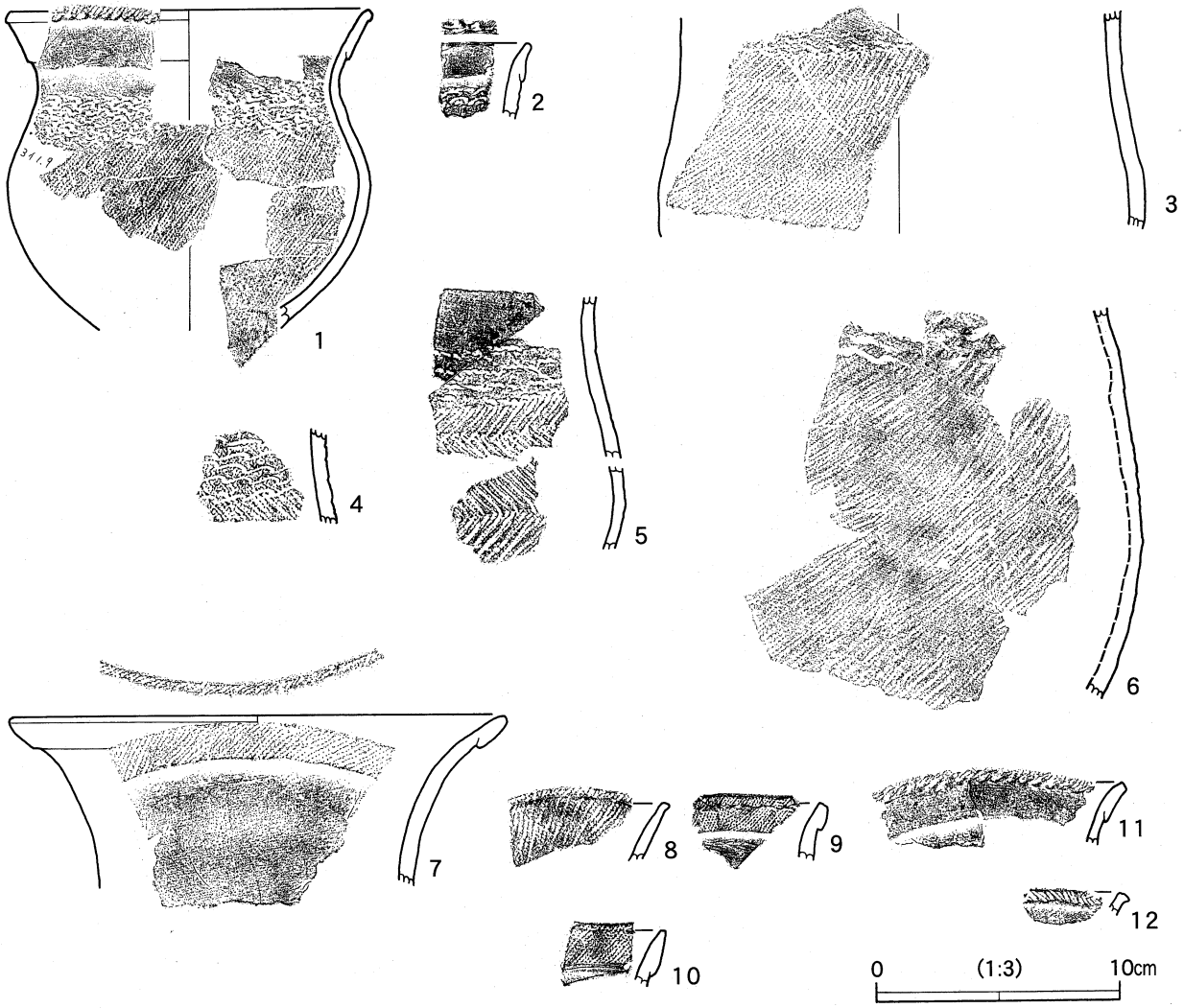
3　甕頸部～胴上部。復元胴部最大径19.8cm。頸部Z字結節文。以下附加条LR＋2R。（154，162）。4　頸部S字結節文。RL＋2L。（80）。5　頸部～胴中部。頸上半無文，下半結節文。以下，附加条LR＋2R，RL＋2L，LR＋2Rと施文され羽状を成している。外面に黒い煤状物質付着。D64の1（第71図）と同一個体であろう。（183，99，一括）。6　頸部～胴中部。復元胴部最大径39.6cm。頸部太い結節文。以下，附加条LR＋2R。（88～90，127，130，134，135，137，163，167，179，181）。

7　甕複合口縁部～頸部。復元口径24cm。口唇上～複合部に附加条LR＋2R。頸部無文。外面に黒い煤状物質付着。（64，63，F8-86-2G）。8　口縁部。複合か。口唇上～口縁部に附加条LR＋2R。（49）。9　複合口縁部。口唇上～複合部に附加条LR＋2R。（一括）。10　複合口縁部。口唇上～複合部に附加条LR＋2R。（77）。11　複合口縁部。復元口径15.4cm。口唇上に附加条LR＋2Rか。以下は，無文。（131，120）。12　小片。口唇上に無節縄文か。（一括）。13　複合口縁部～胴中部。復元口径14.8cm。復元頸部径12.8cm，復元胴部最大径16.5cm。口唇上，内外からの押圧による小波状。頸部無文。胴部附加条LR＋2R。（42～44，66，71，79，81，82，100～104）。14　複合口縁部。口唇上，内外からの押圧による小波状。（147）。15　復元頸部径11.2cm。3本単位の櫛描文，波状の後に横方向直線。（168）。16　頸部に6単位の櫛描文による山形文。以下附加条LR＋2R。（117）。17（70）。18　附加条LR＋2R。下端の割れ口が磨ってある。（83）。19　球形に近い胴部。復元胴部最大径31.2cm。附加条LR＋2R。（24，26，87，98，132，136）。20　複合口縁部。ナデ，ミガキ。（158）。21　小片。口縁部。小型椀か。焼成前の穿孔が2つ並ぶ。D64住居跡出土資料と接合。（一括，D64一括）。22　頸部～胴中部。復元頸部径15cm，復元胴部最大径17.5cm。淡褐色，灰色，黒褐色。無文。外面に黒い煤状物質付着。（14，16，18，23，40，46，54，73，109，114，153，155）。

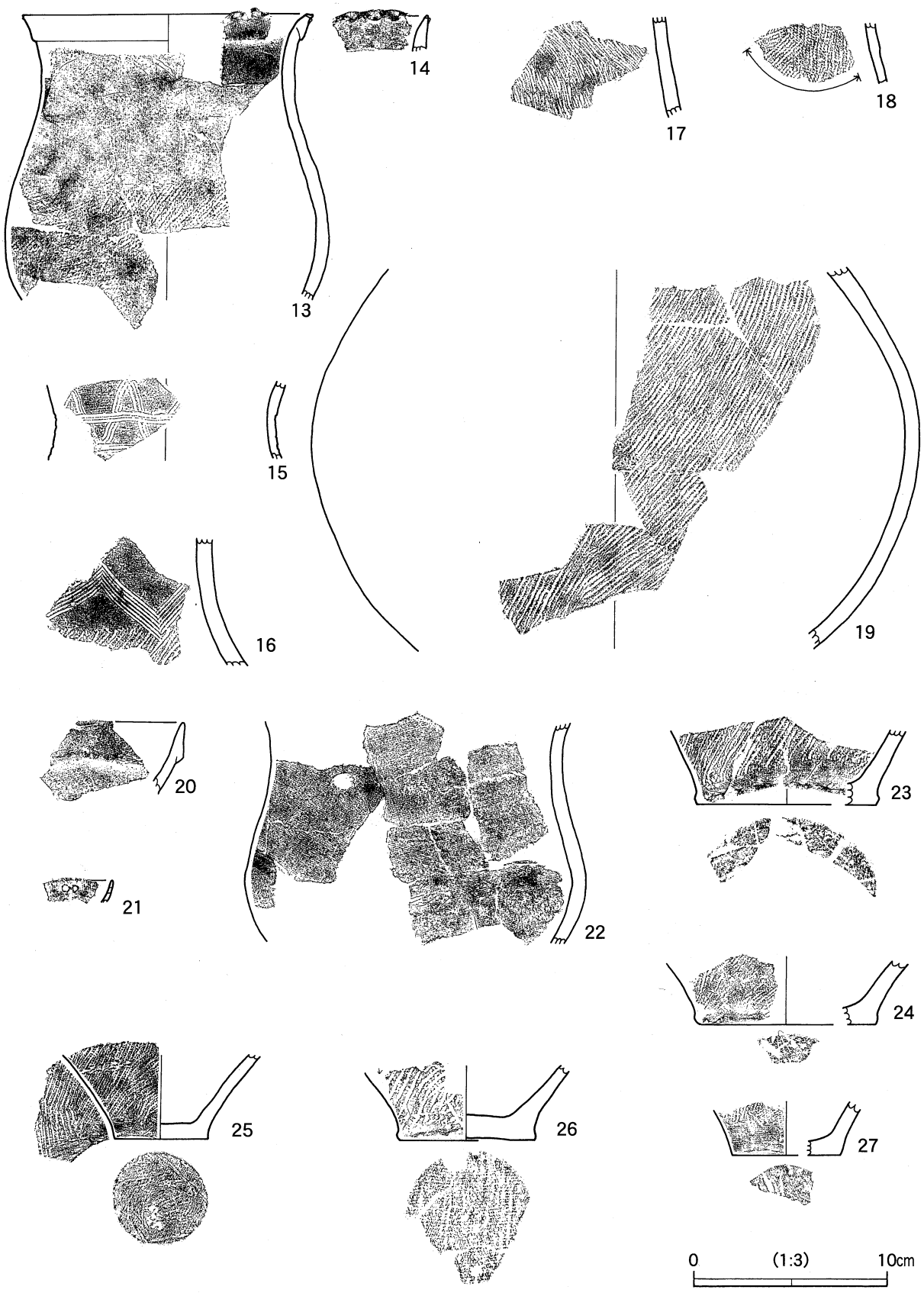
23　底部。復元底径9.2cm。底外面木葉痕。外面附加条LR＋2R，下端は横方向ナデ。（8，11，96，97，一括）。24　底部。復元底径9.2cm。底外面木葉痕。外面細かい附加条LR＋2R。（22）。25　底部。底径4.8cm。底外面ナデ痕。外面細かい附加条LR＋2R。（一括）。26　底部。底径7cm。底外面布痕。外面附加条LR＋2R。（27，119，124，126，128，149，M17-1）。27　底部。復元底径5.6cm。底外面木葉痕を消したものか。外面附加条LR＋2R，下端は横方向ナデ。（176）。



第 67 図　D63 住居跡実測図



第 68 図　D63 住居跡出土遺物（1）



第 69 図　D63 住居跡出土遺物（2）

D64住居跡（第70図～72図）

位置　F8-75G～76G～85G～86G。**平面形態**　北西－南東方向に長い楕円形（いわゆる小判形）。**規模**　北西－南東方向5.7m，北東－南西4.66m。深さ24cm。**覆土**　全体的にしまりがある。暗褐色土，黒褐色土が主体を占める。1：7.5YR1.7/1（黒色土）。2：7.5YR3/1（黒褐色土）。3：7.5YR2/1（黒色土）。4：7.5YR3/3（暗褐色土）。5：7.5YR2/3（極暗褐色土）。6：7.5YR5/6（明褐色土）。7：7.5YR6/6（橙色土）。**壁面**　やや丸味をもって立ち上がる。**床面**　ほぼ平坦だが，根による撹乱が多く認められる。P5・P6の北西に土間状の硬化面がある。P5～P6の周囲は暗褐色土が主体で，撹乱が多く捉えにくかった。**炉跡**　中央に1基。覆土は，7.5YR3/2（黒褐色土）主体で焼土量は少ないが，火床が認められた。**柱穴**　P1～P4が相当。深さは、P1が62cm，P2が71cm，P3が64cm，P4は段差があり，深い方は71cm。**出入口**　P5とP6の一部が相当か。P5の深さは4cm，P6の一部は45cm。

遺物　51点以上出土。うち少なくとも39点は弥生土器。数は少ないが，比較的大きな破片を得た。D63の遺物と接合する例がある。

1　甕。頚部～胴下部。復元頚部径15.8cm。復元胴部最大径18.4cm。頚部上半は，無文，下半Z字結節文。以下，附加条LR＋2R，RL＋2L，LR＋2Rと施文され羽状を成している。D63住居出土資料と接合。D63-5（第68図）は，同一個体と考えられる。（1，D63-30）。

2　胴下部～底部。底径12.5cm。底外面木葉痕で，葉縁が見えている。葉縁は，D16の18でも見えている。籾痕のような窪みも見える。外面全体にLR＋2R。（8）。

3　複合口縁部。口唇上～複合部にLR＋2R。頚部に結節文。（9）。4　複合口縁部。口唇上～内面にLR＋2R。外面は，無文。（48）。5　複合口縁部の下端に刻み。RL＋2L（一括）。6　複合口縁部。口唇上に刻み，下端にも刻み。（一括）。

7　胴部下半。LR＋2R。（7）。8　復元胴部最大径18cm。LR＋2R。（39，46，一括）。9（20）。

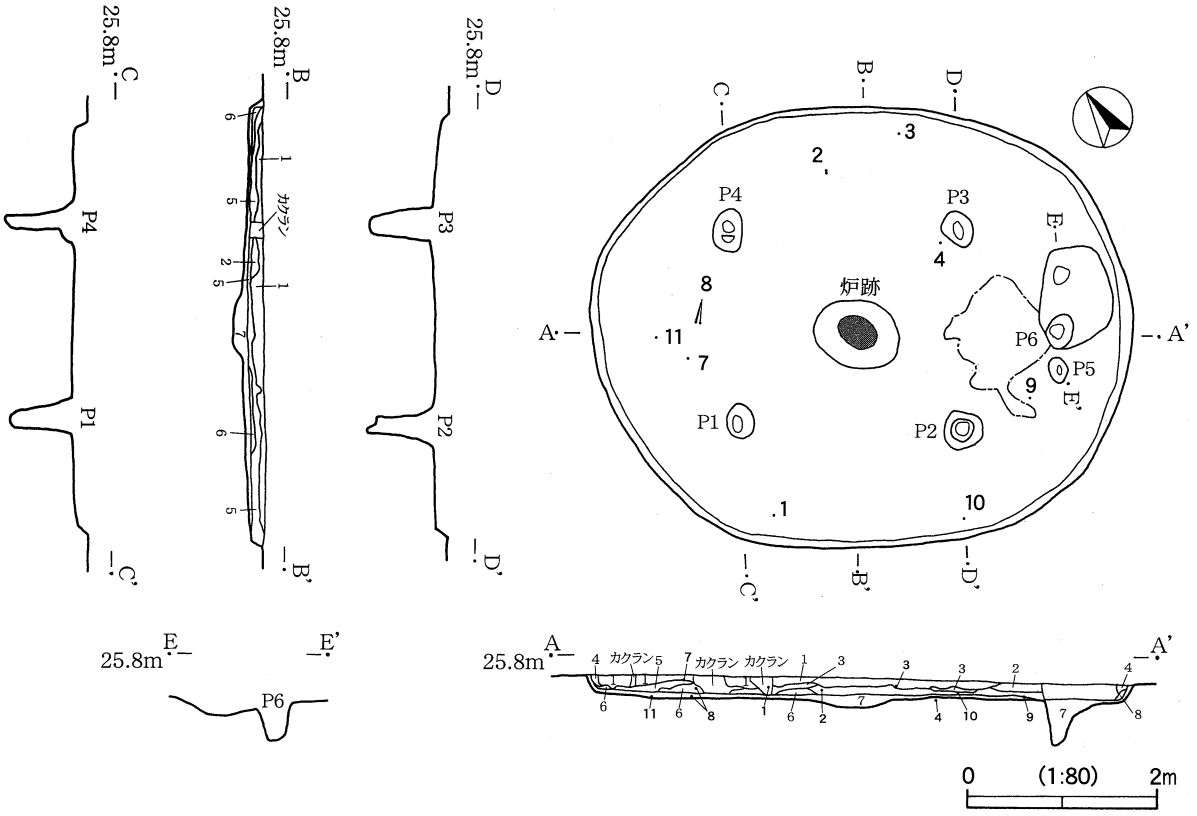
10　板状の石。74×62×12，48.8g。明瞭な加工痕は，認められない。砂岩。D41-11・D54-14～16と同様の石（32）。11　角礫。実測図は，省略（図版29）。65×53×43，226g。灰白色・黄白色・白色。床面に食い込んで出土。（45）。

D66住居跡（第73図～74図）

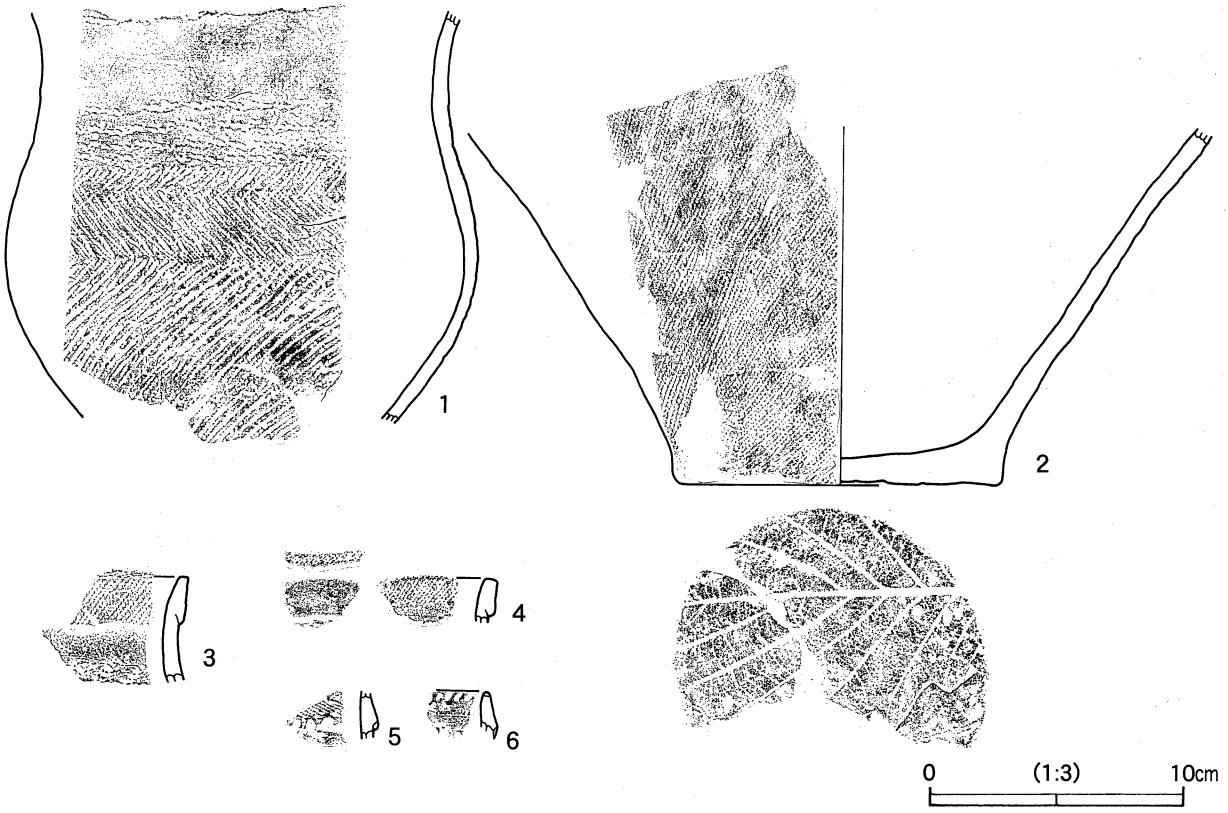
位置　F8-72G～73G～83G。**平面形態**　北西－南東方向に長い，いびつな隅丸方形。**規模**　北西－南東方向5.05m，北東－南西方向3.4m。深さ8cm。**覆土**　上部は削られてしまったため，ごく薄くしか残っていない。全体的にしまりがある。1：7.5YR1.7/1（黒色土）。2：7.5YR4/4（褐色土）。3：7.5YR5/8（明褐色土）。4：7.5YR6/8（橙色土）。5：7.5YR4/2（灰褐色土）。6：7.5YR8/8（黄橙色土）。7：7.5YR4/3（褐色土）。8：7.5YR7/8（黄橙色土）。**壁面**　高さ5cm程度しか残っていなかった。**床面**　ほぼ平坦。ソフトロームから成る柔らかい床が大半を占めるが，褐色～暗褐色土のシミが多かった。硬化面は，面的な広がりではなく，ブロック状に住居の南東部分に散在している。**炉跡**　覆土は暗褐色土主体。焼土量少なく，火床も未発達であった。**柱穴**　P6が46cm，P7が36cm，P13が32cmと比較的深い。P1・P3・P11・P8・P5が比較的整然とした五角形を成している。深さは，P1が24cm，P3が21cm，P11が26cm，P8が13cm，P5が12cm。**貯蔵穴**　P10あるいはP15の一部が相当するか。P10は，覆土が暗褐色土と褐色土，深さ13cm。P15は，覆土が暗褐色土と褐色土が混じり合い，最深部が26cmで，凹凸がある。**出入口**　P15の一部が相当か。その他のピット　P2・P4が深さ5cmの窪み，P9は深さ16cm，P14は深さ16cmで凹凸がある。

遺物　53点以上出土。うち少なくとも46点は弥生土器。覆土の厚さが10cmにも満たなかったが，略完形の鉢などが得られた。

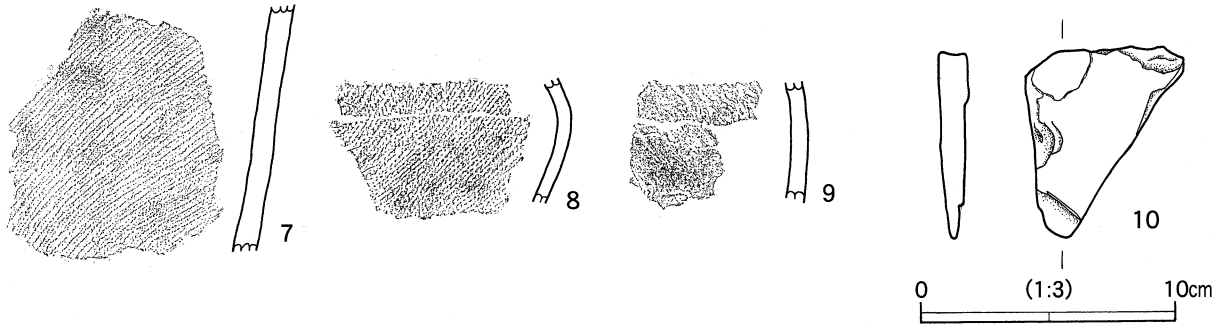
1　複合口縁の浅鉢。略完形。高さ：8.1cm，口径17.4cm，底径6.3cm。黒灰色，淡褐色。細砂。口唇上～胴下部までLR＋2Rが施文される。底部付近は，ナデで消されている。底外面木葉痕。内面ナデ・ミガキ。（1，39，40，43，46，47，50，52，53）。



第 70 図　D64 住居跡実測図



第 71 図　D64 住居跡出土遺物（1）



第72図　D64住居跡出土遺物（2）

2　頚部～胴上部。復元頚部径9cm。復元胴部最大径13.4cm。頚部は，無文・結節文・無文・結節文。以下ＬＲ＋２Ｒ。(20，24，42，48)。

3　複合口縁部。複合部下端に擬似交互刺突文。以下に縦方向の櫛描文。(22)。5　縦方向の櫛描文と櫛描波状文，結節文。（4）。6　5と同じ文様構成。（5）。7　櫛描波状文と結節文。(23)。3・5～7は，同一個体と考えられる。

4　5本単位の櫛描文による山形文。以下ＬＲ＋２Ｒ。(一括)。8　壺か。頚部。復元頚部径9cm。淡褐色。縦方向と斜方向の細い沈線を組み合わせた文様が見える。以下には，ＬＲ縄文が2段。内面に輪積痕が残る。(一括)。

（2）方形周溝状遺構・土坑（第61図）

Ｉ２方形周溝状遺構（第75図～76図）

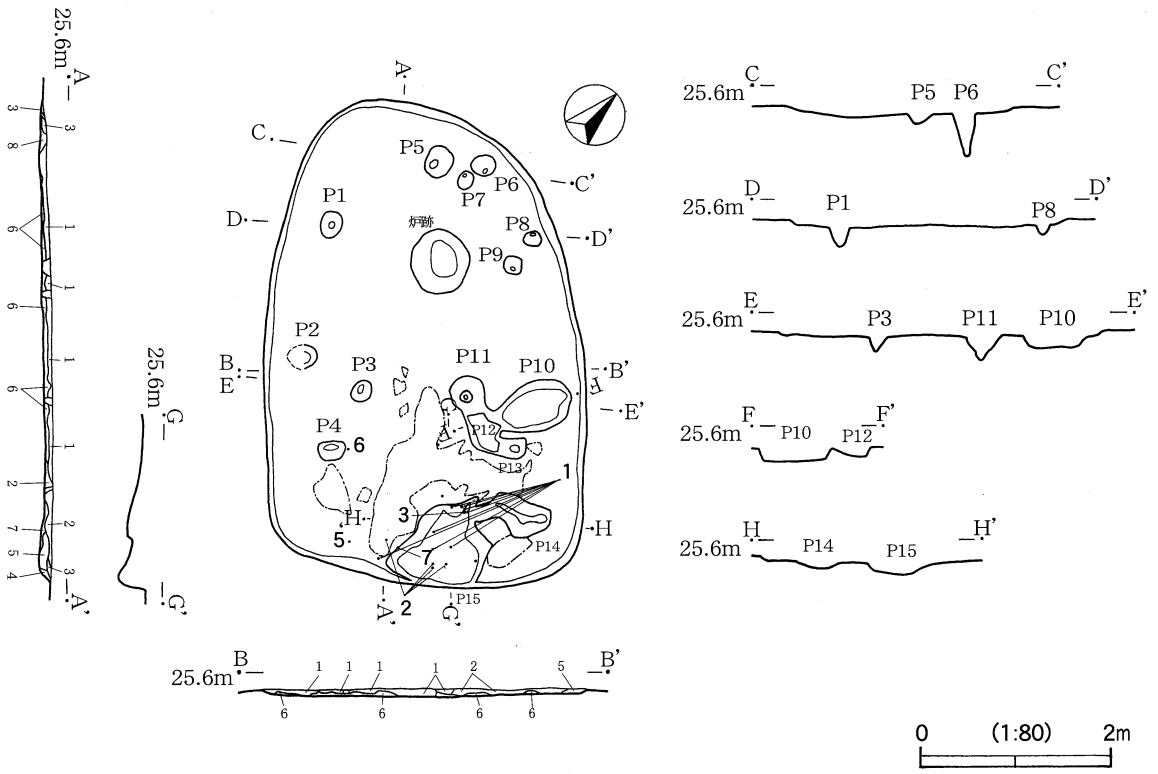
位置　F8-63Ｇ～64Ｇなど。M19溝・M20溝・Ｐ249に切られる。Ｐ250・Ｐ343を切る。**平面形態**　北東－南西方向に長い，方形。**規模**　北西－南東方向外径10.2m，内径8.0m，北東－南西方向外径11.4m，内径8.7m。溝の幅は最大1.5m，最小0.6m。コーナーが狭く浅くなる傾向が認められる。深さ24～44cm。**覆土**　全体的にしまりがあり，径１～３mmの黄色スコリアを含む土が主体。１：7.5YR2/2（黒褐色土）。２：7.5YR2/1（黒色土）。３：7.5YR5/4（にぶい褐色土）。黄スコやや多い。４：7.5YR4/3（褐色土）。５：7.5YR6/6（橙色土）。黄スコ最多。６：7.5YR2/2（黒褐色土）。黄スコやや多い。７：7.5YR4/4（褐色土）。８：7.5YR7/6（橙色土）。ロームブロック。９：7.5YR5/6（明褐色土）。しまりにやや欠ける。黄スコ・ロームブロックやや多い。10：7.5YR1.7/1（黒色土）。11：7.5YR4/4（褐色土）。12：7.5YR5/6（明褐色土）。黄スコやや多い。13：7.5YR2/1（黒色土）。14：7.5YR3/1（黒褐色土）。

遺物　59点以上出土。うち少なくとも42点は縄文土器で，弥生土器5点，他に黒曜石製石鏃や同剥片など。遺構の時期を示す遺物は弥生土器であろう。

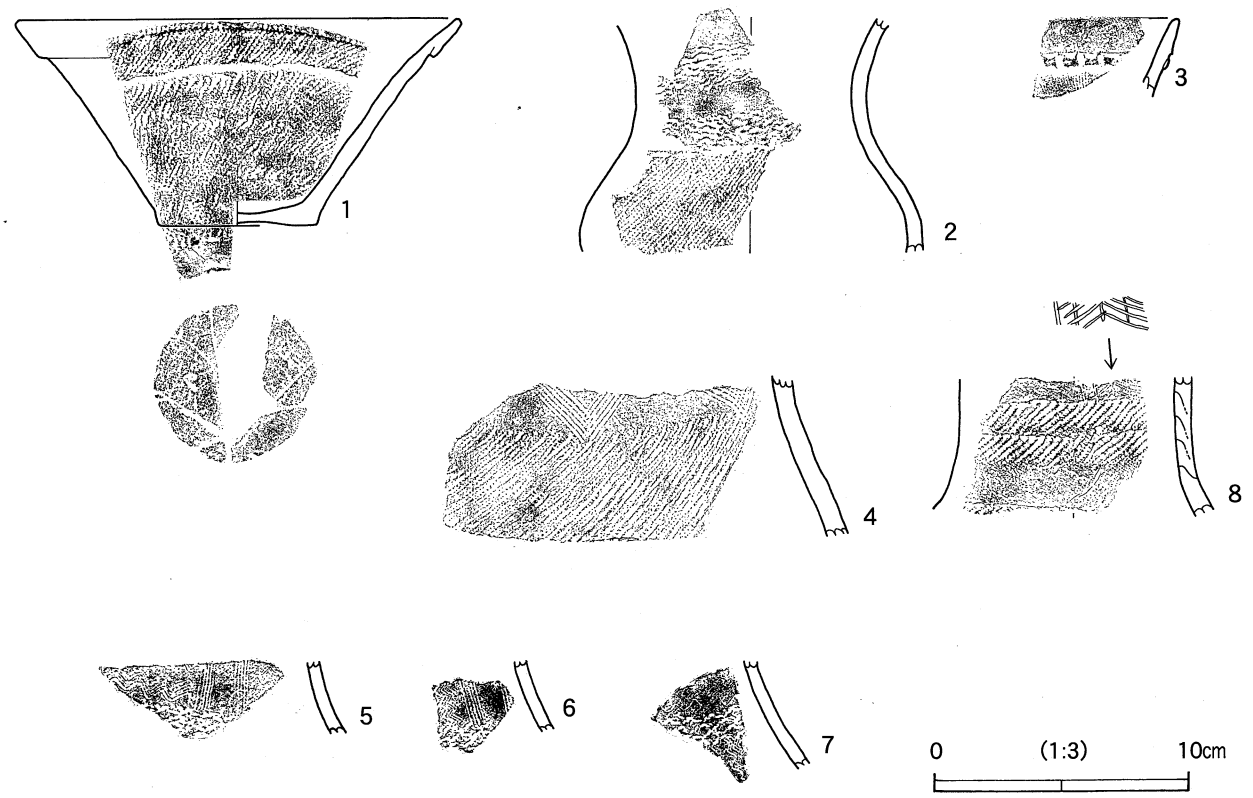
1　甕頚部。縦方向の5本単位櫛描文。（2）。2　甕胴下部。底付近の復元径9cm。外面ハケ目状の擦痕。内面ナデ・ミガキ。（7，10，13，50）。3　口縁部。復元口径16cm。橙色など。細砂・細礫。口唇に突起，おそらく2個一対になる突起ではないか。下部に沈線が見える。(31)。

Ｉ３方形周溝状遺構（第77図～79図）

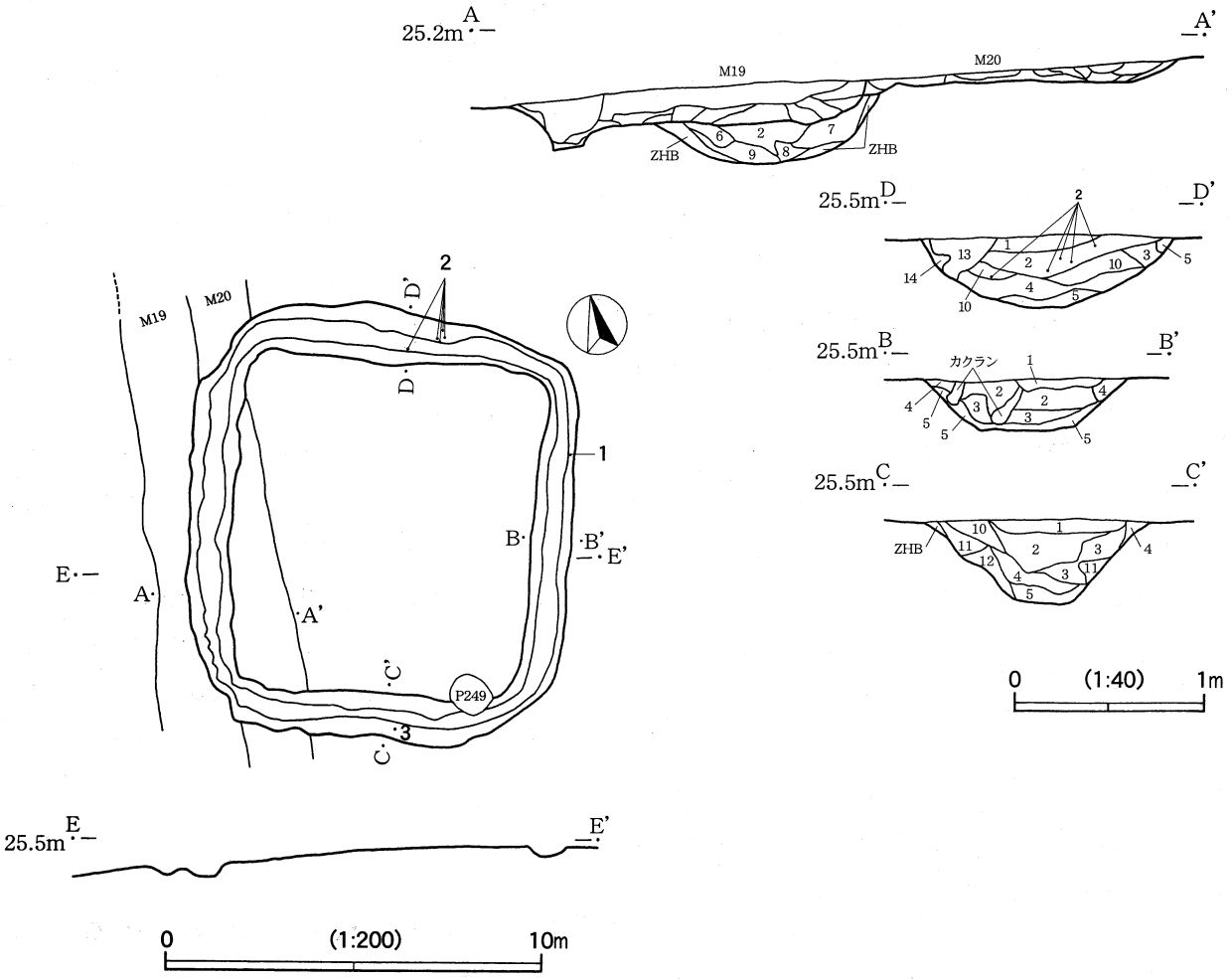
位置　F8-81Ｇ～E8-90Ｇなど。M20溝・M24溝に切られる。Ｐ344を切る。**平面形態**　わずかに北東－南西方向に長い，方形。**規模**　北西－南東方向外径12.5m，内径10.3m，北東－南西方向外径13.0m，内径9.8m。溝の幅は最大1.9m，最小0.65m。コーナーが狭くなる傾向が認められる。深さ32～68cm。**覆土**　全体的にしまりがあり，径１～５ｍｍの黄色スコリアを含む土が主体。１：7.5YR3/2（黒褐色土）。２：7.5YR5/8（明褐色土）。３：



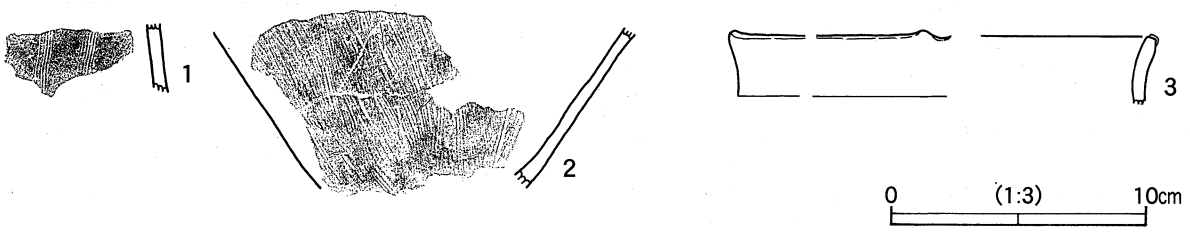
第 73 図　D66 住居跡実測図



第 74 図　D66 住居跡出土遺物



第 75 図　I2 方形周溝状遺構実測図



第 76 図　I2 方形周溝状遺構出土遺物

7.5YR2/1（黒色土）。4：7.5YR3/4（暗褐色土）。5：7.5YR4/4（褐色土）。しまりにやや欠ける。黄スコやや多い。6：7.5YR6/8（橙色土）。しまりにやや欠ける。径15～28mmロームブロックやや多い。7：7.5YR3/1（黒褐色土）。8：7.5YR4/6（褐色土）。9：7.5YR5/8（明褐色土）。黄スコやや多い。10：7.5YR3/3（暗褐色土）。11：7.5YR6/6（橙色土）。径8～65mmロームブロック含む。12：ロームブロック。13：7.5YR4/2（灰褐色土）。14：7.5YR5/8（明褐色土）。径7～15mmロームブロックやや多い。15：7.5YR6/8（橙色土）。径8～18mmロームブロックやや多い。16：7.5YR5/4（にぶい褐色土）。黄スコやや多い。17：7.5YR1.7/1（黒色土）。18：7.5YR3/1（黒褐色土）。黄スコやや多い。19：7.5YR3/4（暗褐色土）。黄スコやや多い。20：7.5YR5/8（明褐色土）。黄スコ・径25 以下ロームブロックやや多い。21：7.5YR4/3（褐色土）。径18～28mmロームブロック含む。22：7.5YR4/6（褐色土）。23：7.5YR5/8（明褐色土）。24：7.5YR6/8（橙色土）。径45mm以下ロームブロック多量含む。ピット　溝内にピット状の窪みがあった。ピット覆土は，1：7.5YR4/3，4/4（褐色土）。径10mmロームブロックを少量含む。2：7.5YR4/4（褐色土）3：7.5YR3/3（暗褐色土）。しまりにやや欠ける。径10～20mmロームブロック含む。4：7.5YR4/3（褐色土）。

遺物　180点以上出土。うち少なくとも124点は縄文土器で，弥生土器6点，土師器1点，他に阿玉台式土器を再利用した土器片錘6点，黒曜石剥片や焼礫など。

1　甕底部。底径6.7cm。底外面木葉痕。外面粗いハケ目。(80)。2　頸部。平行沈線による縦横の文様。(177)。3　S字結節文，附加条LR＋2Rを横位に回転。Rの圧痕しか見えない。(159)。4　附加条RL＋2L。(99)。

P292土坑（第80図）

位置　F8-72G。縄文土坑P294を切り，K1古墳よりは古い。**径**　82×68cm。**深さ**　28cm。**覆土**　径1～5mmの黄色スコリアを含む。4以外は，しまりがある。1：7.5YR5/3（にぶい褐色土）。2：7.5YR2/3（極暗褐色土）。3：7.5YR3/1（黒褐色土）。黄スコ多量。4：7.5YR4/4（褐色土）。黄スコやや多。5：ZHB。**遺物**　弥生土器細片4点。本遺構に切られるP294の覆土上層から鉢が出土（第82図P294-2）。

（3）その他の弥生土器

K1古墳出土弥生土器（第81図）

K1古墳の範囲内からは，弥生土器も多く出土した。特にF8-71G杭から北東～東へ1～2.5mの付近に集中していた。この付近は，縄文土器も集中していた地点である。

1　甕複合口縁部～頸部。口唇刻み，複合部に附加条LR＋2R，頸部無文。(M1)。2　1と同一個体。(一括)。3　甕複合口縁部。口唇刻み，複合部に附加条LR＋2R。M1内。(245)。4　甕複合口縁部。口唇刻み，複合部に附加条LR＋2R。(338，399)。5　甕複合口縁部。口唇上～複合部に附加条LR＋2R。頸部S字結節文。(336)。6　甕複合口縁部～頸部。口唇～複合部に附加条RL＋2L。複合部下端擬似交互刺突文。頸部櫛描波状文。(一括)。7　甕複合口縁部。復元口径9cm。(M1)。16　7と同じような原体。(228，241，一括)。

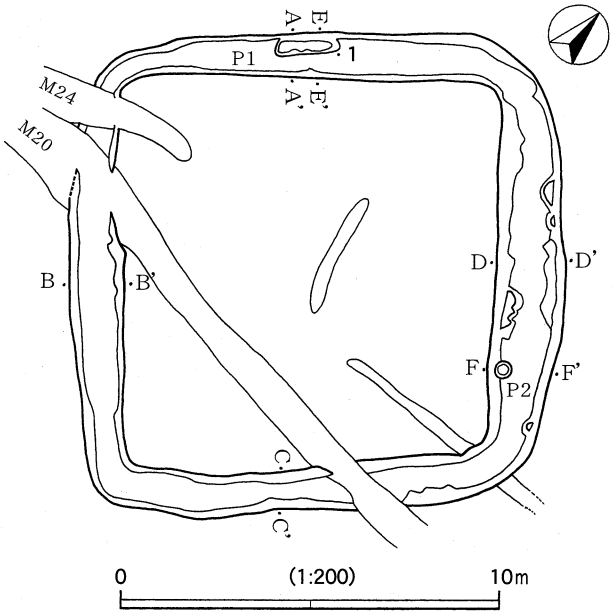
8　甕頸部～胴上部。交互に無文部とS字結節文，LR＋2R。M1内。(249)。9　甕頸部。8と同様。(406，407)。11　甕胴上部。復元頸部径18cm。復元胴部最大径18.4cm。8・9と同様の文様。(346，一括)。10　甕頸部。S字結節文，無文部は，ハケ目状の擦痕。(M1)。14　10と同一個体。(M1)。

12　甕胴上部。LR＋2R。(340)。13　LR＋2R。(293)。15　底部付近。RL＋2L。(316)。

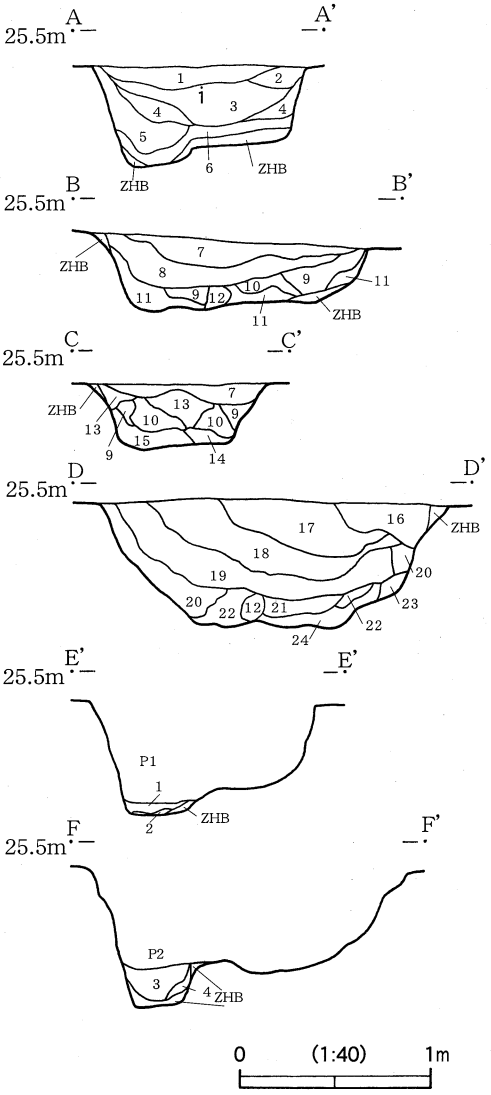
その他の遺構及び遺構外出土弥生土器

1　甕。複合口縁部～胴上部。復元口径17.2cm。口唇上部に化粧土と刻みか。複合部下端刻み。頸部横方向ハケ目状擦痕。LR＋2R。(D47-36，39)。2　底部。復元底径7.4cm。底外面木葉痕。外面横方向ナデ。(D47-41)。

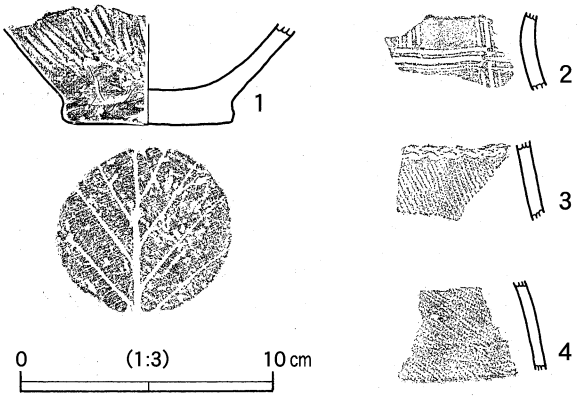
3　甕。複合口縁部～頸部。頸部が黒色，他は，褐色。LR＋2R。(D49-68)。



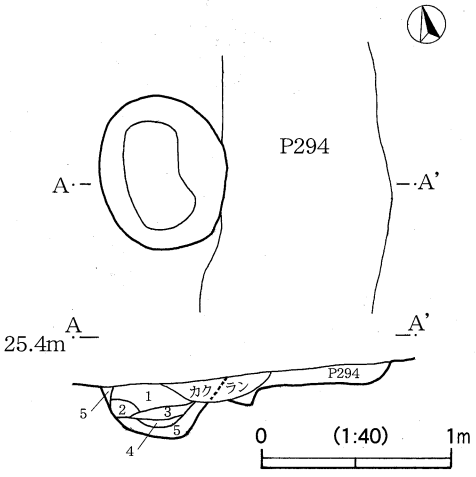
第 77 図　I3 方形周溝状遺構実測図（1）



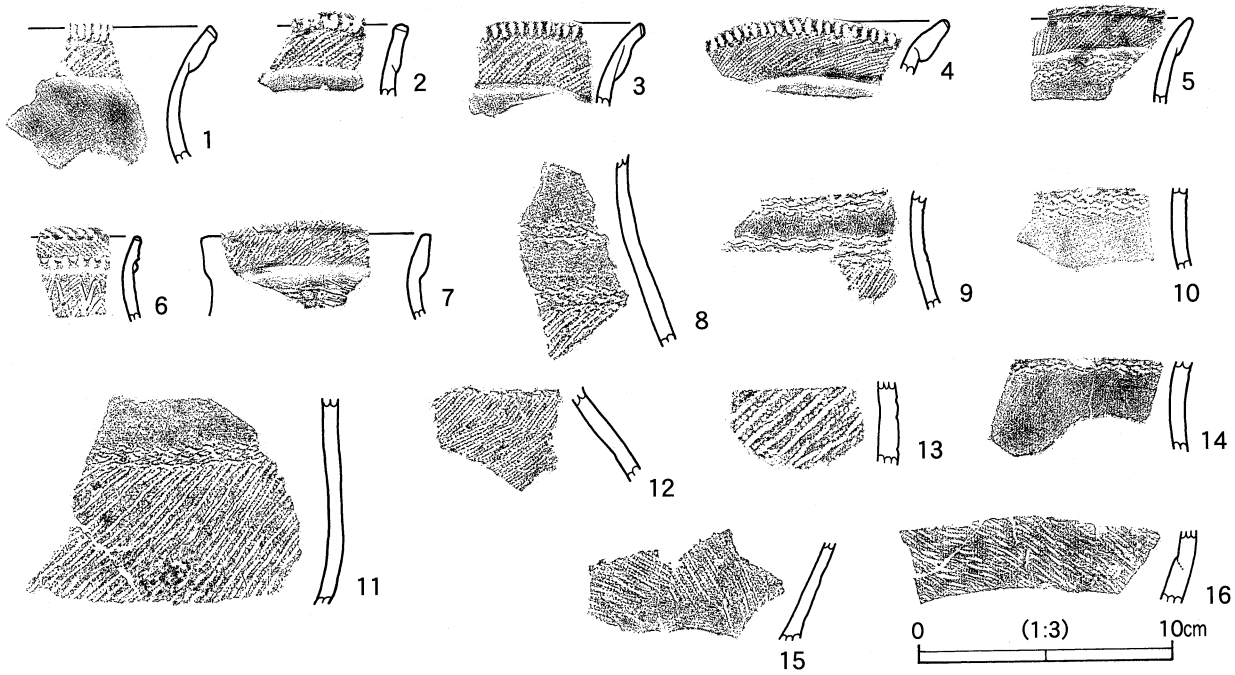
第 78 図　I3 方形周溝状遺構実測図（2）



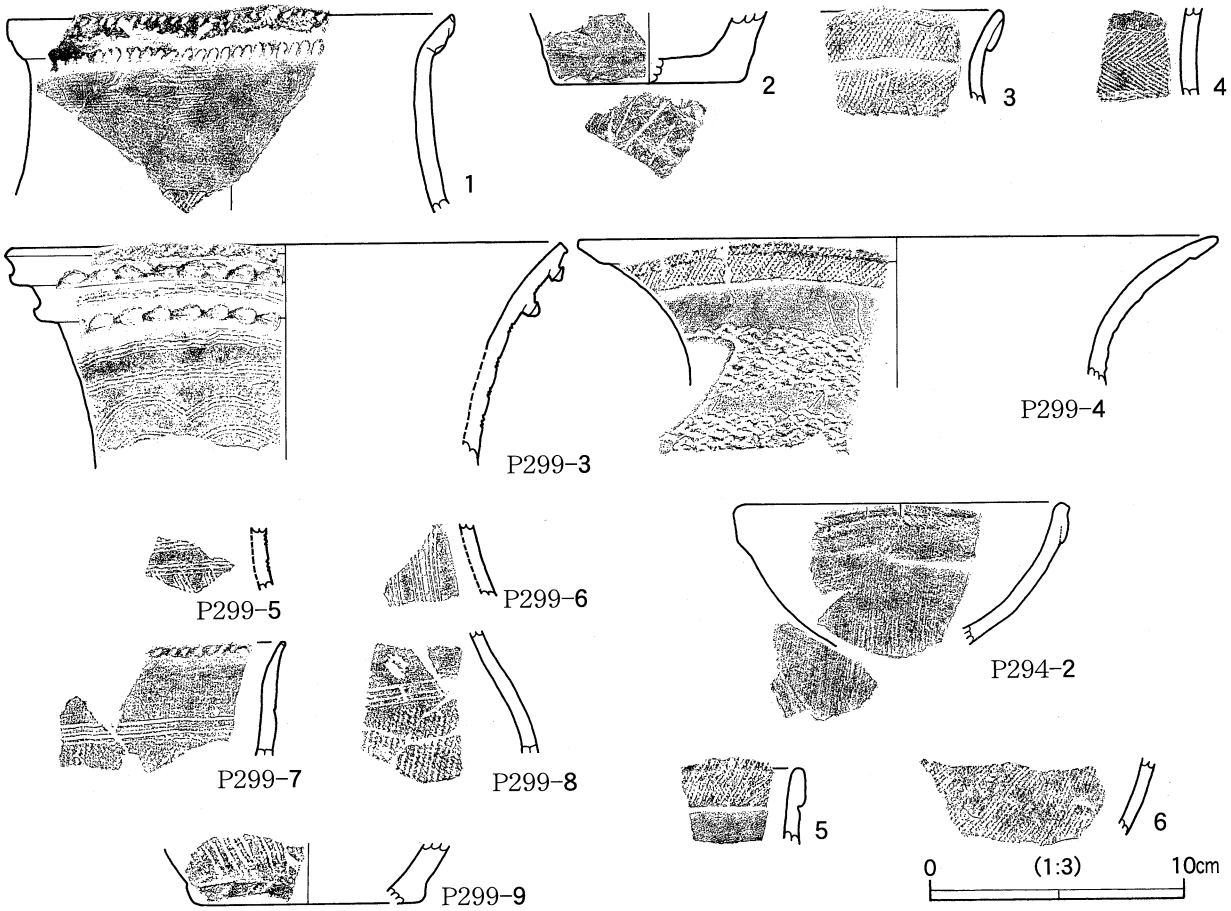
第 79 図　I3 方形周溝状遺構出土遺物



第 80 図　P292 土坑実測図



第 81 図　K1 古墳出土弥生土器



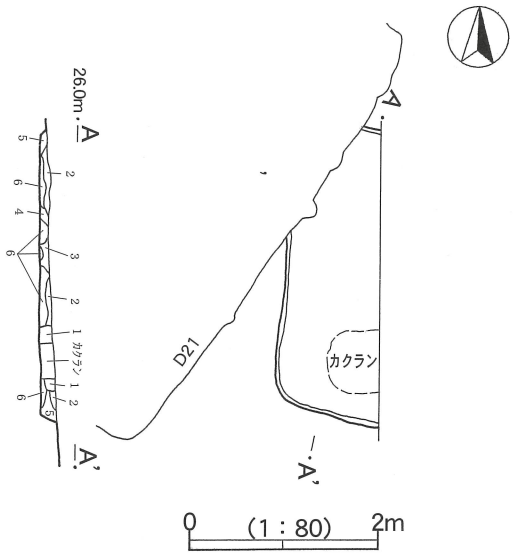
第 82 図　その他の遺構及び遺構外出土弥生土器

4　甕。頸部。細かいＬＲ＋２ＲとＲＬ＋２Ｌで羽状を成す。(M17)。

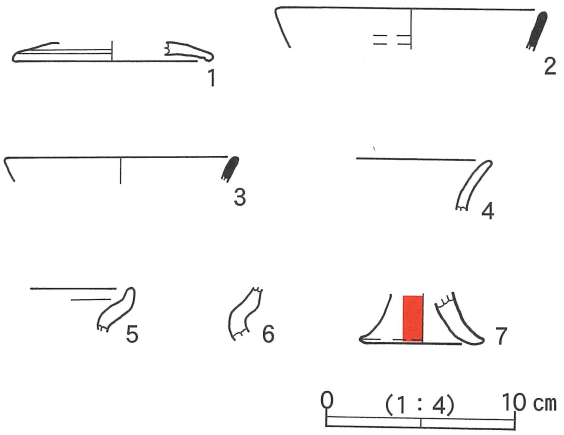
次の７点は，Ｐ299土坑出土（遺物』は第239図による)。Ｐ299-３・５・６は，同一個体であろう。甕。復元口径21.4cm。淡褐色。雲母・長石を含む。口唇に縄文，押圧のある隆帯２条。頸部に３本単位の櫛描による簾状文，連弧文が描かれる。Ｐ299-３（66，76，86，105など)。Ｐ299-５（一括)。Ｐ299-６（54)。Ｐ299-４　複合口縁甕。復元口径25cm。口唇～複合部にＬＲ＋２Ｒ。頸部にＳ字結節文と無文部。(45，23，27，75，108，115，135，一括)。Ｐ299-７　口唇刻み。平行沈線，ＬＲ＋２Ｒ。(34，一括)。Ｐ299-８　７と同一個体であろう。(16)。Ｐ299-９　底部。復元底径8.6cm。外面ＲＬ＋２Ｌ。(38)。

Ｐ294-２　鉢。復元口径12.8cm。黒色，黒褐色，暗褐色。赤褐色粒子など含む。複合口縁。口唇上に縄文。以下，横方向ナデ，縦方向ミガキとハケ目状擦痕。(２，３，６)。

５　口唇上～複合部にＬＲ＋２Ｒ。(F8-83-3Ｇ)。６　胴下部。ＬＲ＋２Ｒ。(F8-86-2Ｇ)。



第 114 図　D22 住居跡実測図



第 115 図　D22 住居跡出土遺物

1　土師器坏。残存高4.5cm，復元口径13.8。(63，93)。2　土師器甕。口径17.5cm。厚手。口縁内外横方向ナデ。外面頚部のヘラ削りが部分的にハケ目のように見える。(1，52，60)。3　甕か。復元口径13.8cm。(70)。

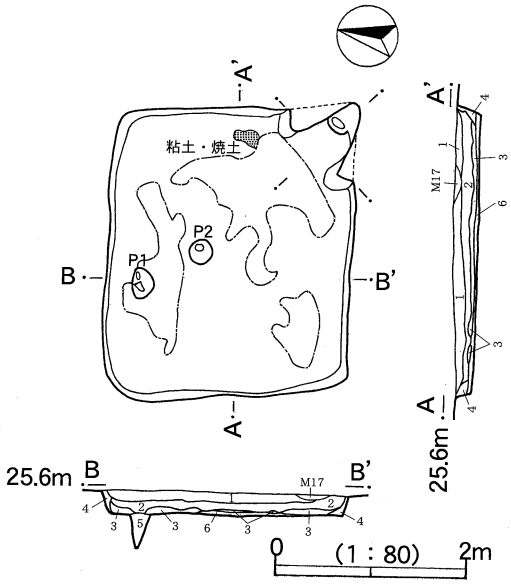
4～6は，臼玉完形品。すべてP5内出土。4　最大径5.5mm×最大厚3.3，0.2g。(99)。5　5.2×3.3，0.2g。(一括)。6　5.3×3.8，0.2g。(一括)。

D22住居跡（第114図～115図）

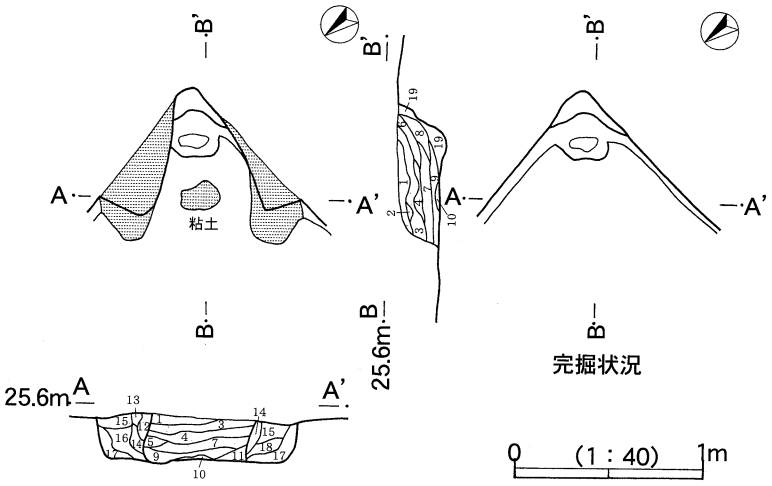
位置　F9-38G。**平面形態**　方形。大半は区域外。D21住居跡に切られる。**規模**　南北方向3.06m，東西方向残存1.0m。深さ15cm。**覆土**　全体的に，径1～5mm黄色スコリアを含む。1：7.5YR1.7/1（黒色土）。しまり欠ける。2：7.5YR3/1（黒褐色土）。しまりあり。3：10YR4/1（褐灰色土）。しまり欠ける。ロームブロック多量含む。4：7.5YR4/6（褐色土）。しまりあり。5：7.5YR3/4（暗褐色土）。しまりあり。黄スコ多く含む。6：10YR6/8(明黄褐色土)。しまりあり。黄スコを多く含む。**壁面**　丸みをもって立ち上がる。**床面**　平坦。ロームから成り，明瞭な貼り床は認められない。

遺物　総数201点出土。縄文土器11点，弥生土器2点，土師器152点，須恵器29点，礫7点など。いずれも小片。

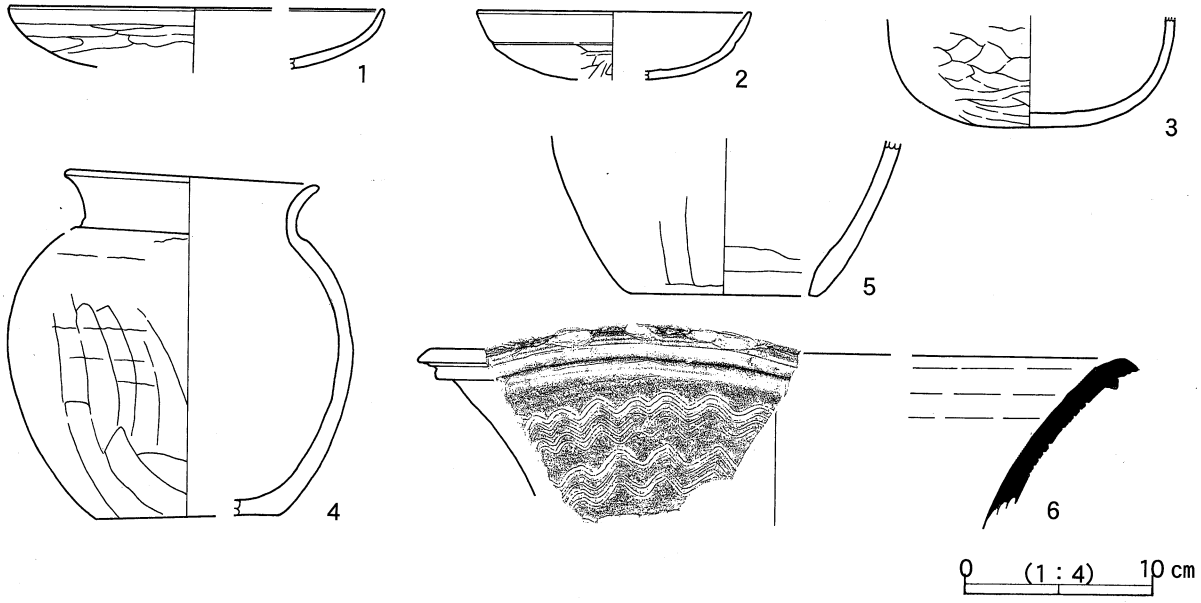
1　土師器蓋。復元口径10.6cm。(8)。7　土師器高坏の脚部。復元底径6.6cm。(一括)。4～6は，土師器甕。いずれも一括。4　武蔵型。5　復元口径27.6cm。口唇つまみ出し直立。6　口唇つまみ出し外反。2・3は，須恵器坏，ロクロ成形，ともに一括。2　復元口径14.3cm。3　復元口径12.4cm。雲母含む。



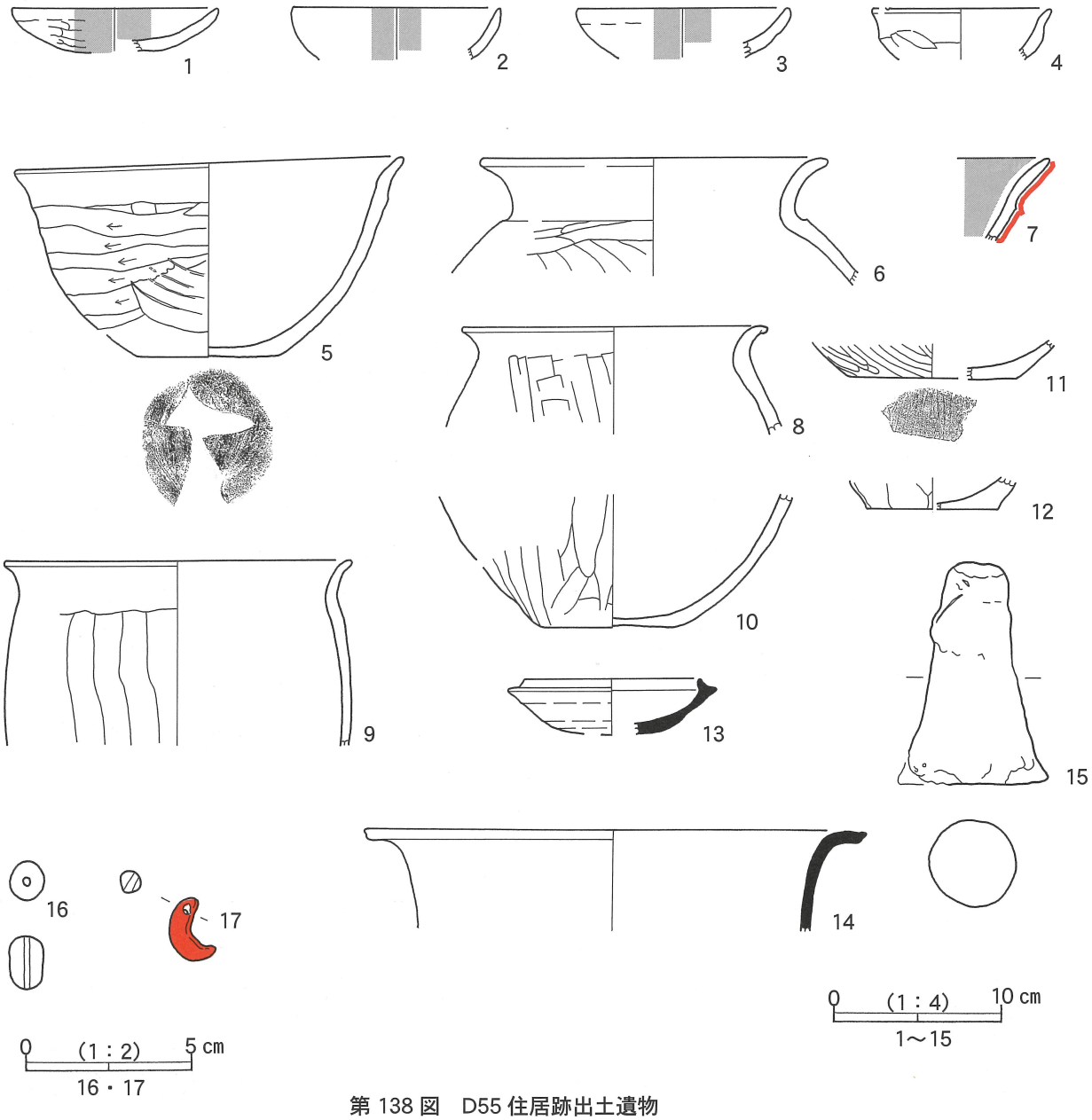
第 126 図　D47 住居跡実測図



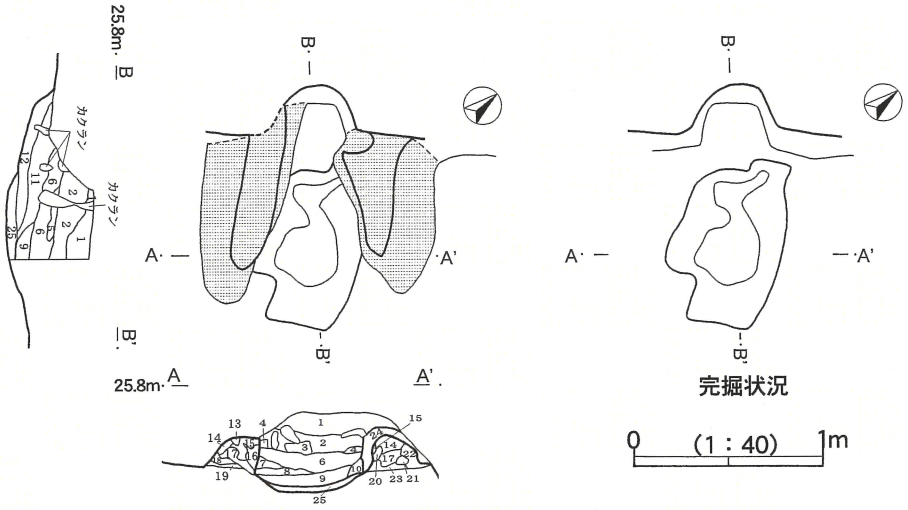
第 127 図　D47 住居跡カマド実測図



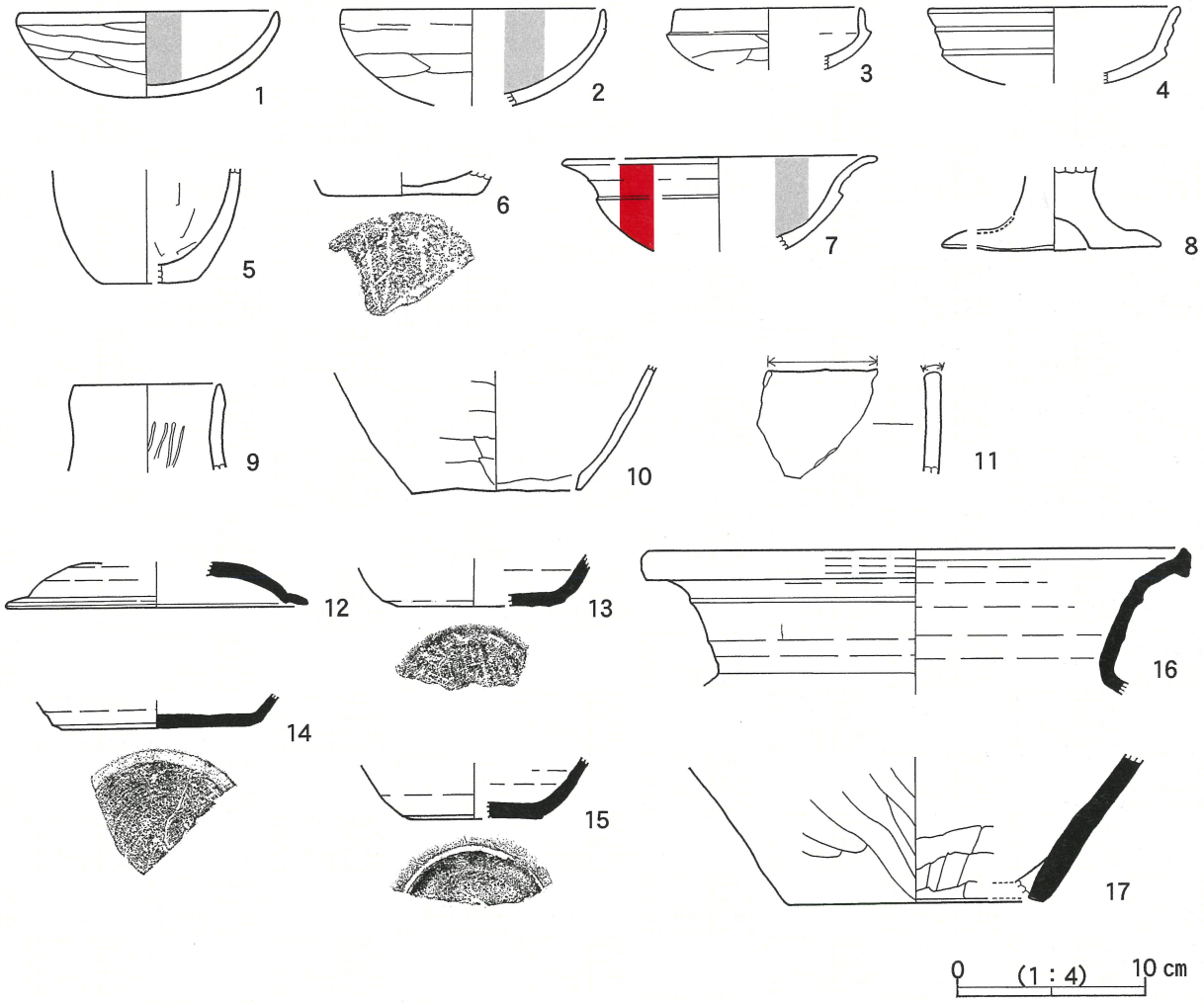
第 128 図　D47 住居跡出土遺物



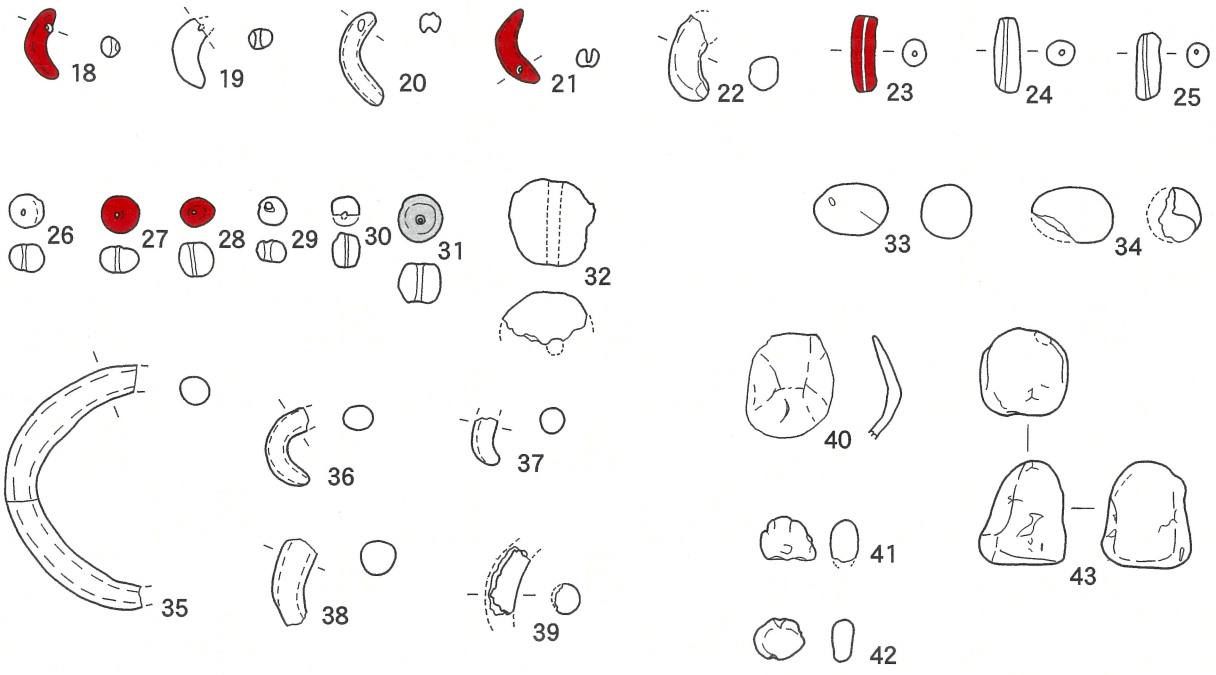
第 138 図　D55 住居跡出土遺物



第 146 図　D72 住居跡カマド実測図

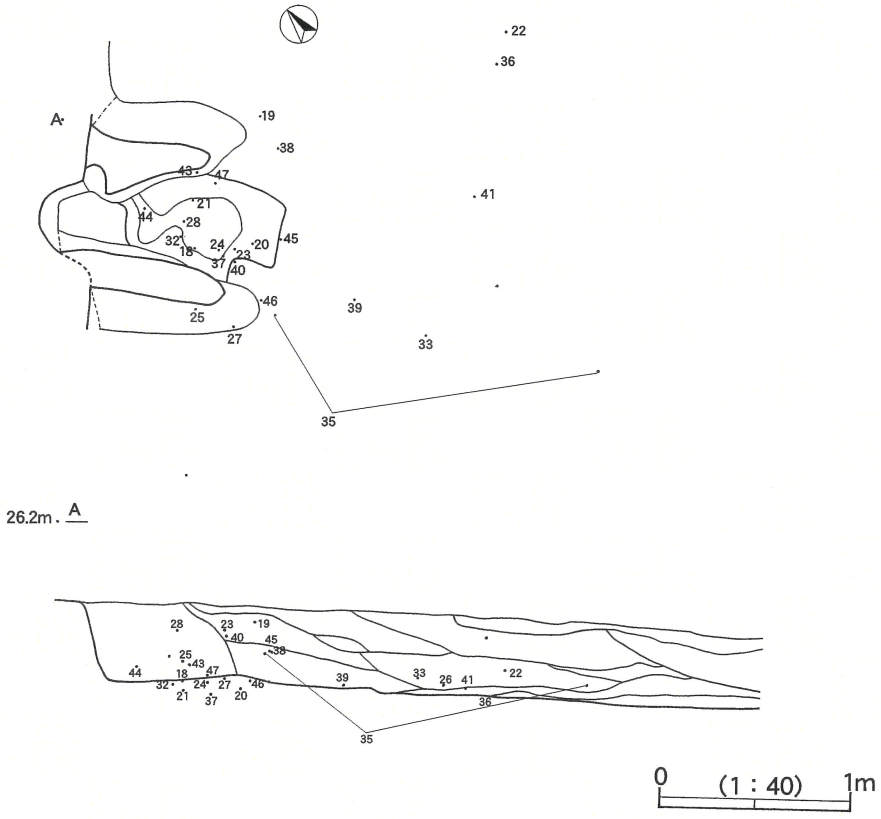


第 147 図　D72 住居跡出土遺物（1）



第 148 図　D72 住居跡出土遺物（2）

0 (1：2) 2 cm



第 149 図　D72 住居跡　カマド周辺土製品出土状況

26～32は，土玉。26　完形。7mm×9.5×9。褐色，灰褐色。緻密。貫通孔。(480)。27　完形。7.5mm×10。橙褐色，赤彩。緻密。貫通孔。カマド外，左袖下部出土。(718)。28　完形。9.5mm×9.5×7.5。橙褐色，赤彩か。細砂。貫通孔。カマド内出土。(740)。29　略完形。6mm×8。橙褐色，灰白色。緻密。貫通孔。(カマド内一括)。30　半欠。9mm×7.5×残存5。淡褐色。細砂。貫通孔。(一括)。31　略完形。10.5mm×12。黒色。緻密。貫通孔。(一括)。32　半欠。残存23mm×残存14。橙色。細砂。貫通孔。粗雑な作り。カマド内出土。(739)。

33・34は，球状土製品で，貫通孔無し。33　完形。19mm×14。黒褐色～褐色。細砂。(476)。34　半欠。22mm×残存14.5×残存11。淡褐色。細砂。(一括)。

35～39は，棒状土製品。35　環状。両端欠損。残存65mm×7～9.7。灰褐色。緻密。(474，478)。36　一端欠損。残存21mm×6.5～8。灰褐色。緻密。(623)。37　一端欠損。残存13mm×6.5。橙褐色。緻密。勾玉の可能性あり。カマド内出土。(737)。38　両端欠損。残存23mm×8.5～9。灰褐色。緻密。カマドの前面出土。(169)。39　欠損。残存18.5mm×7。灰褐色。緻密。(477)。

40　不明土製品。欠損。28mm×22×厚さ2～3。橙褐色，赤彩か。細砂。カマド前面出土。(479)。

43　土鈴か。完形。28mm×22×23。橙色。緻密。カマド内出土。親指の先のような形の土製品。内部に石か何かが入っており，当初は，振ると小さな金属音がした。整理の過程で内部の石（？）が動かなくなり音が鳴らなくなってしまった。(748)。

41・42・44～47は，焼成粘土塊。41　半欠。14mm×残存11.5×厚さ8。にぶい褐色。緻密。(475)。42　完形か。13　×11×5.5。橙褐色。(カマド内一括)。44～47は，実測図省略。44　63mm×46×厚さ24。カマド内出土。(749)。45　40mm×31×厚さ8。カマド前面出土。(151)。46　カマド前面出土。(629)。47　44mm×30×厚さ14.5。カマド内出土。(720)。粘土塊は，他に少なくとも62点出土している。

（4）円形土坑

本遺跡からは，平面が直径1.5m前後の円形で，深さ80～90cmほどの土坑が検出され，古墳時代の土師器の完形品などを出土し注目された。この種の円形土坑は，概ね古墳時代を中心とするものと考え，小型のもの・浅いものも含めここで報告する（第83図）。但し後代のものも含まれる可能性はある。

（第150図）

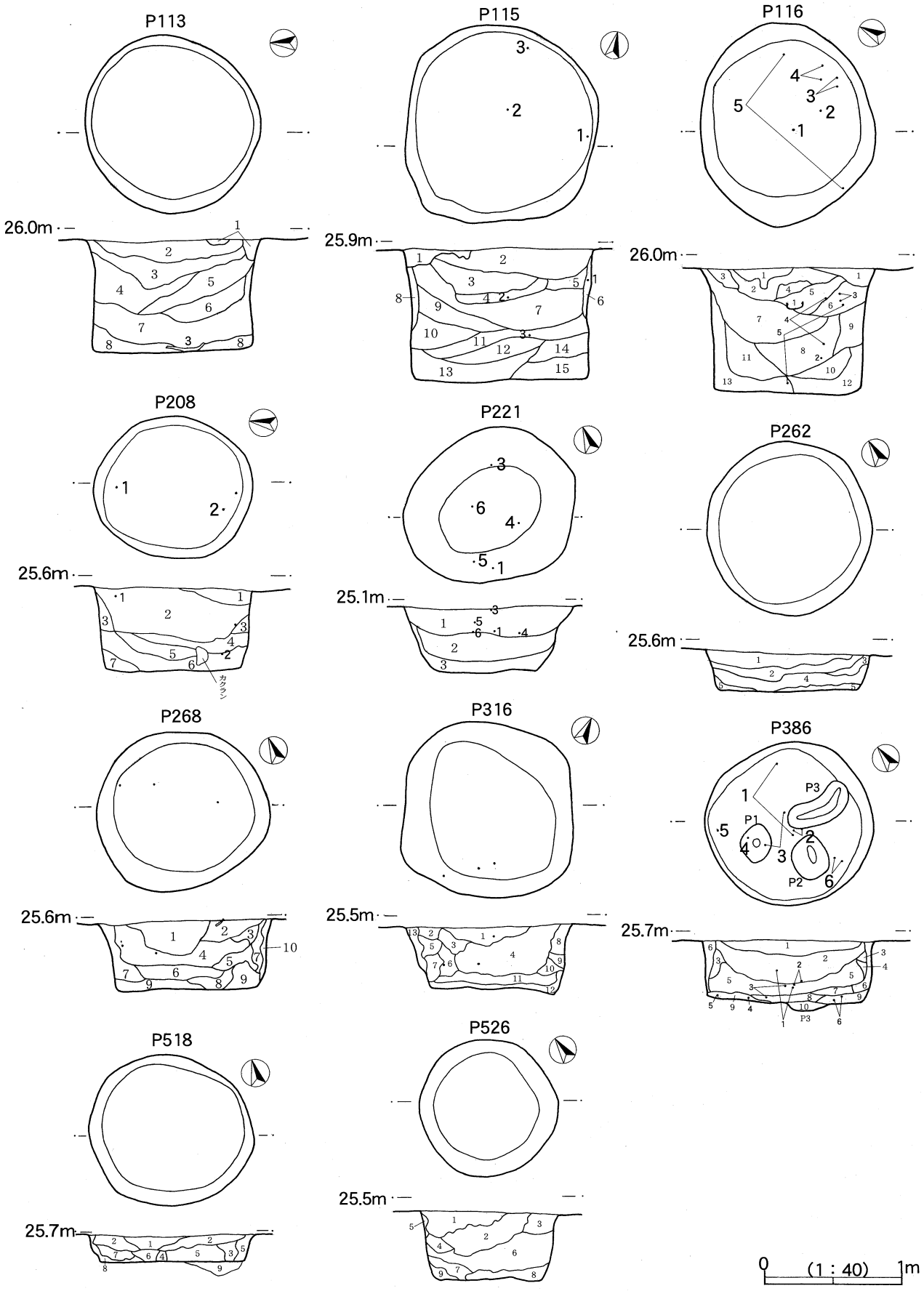
P113土坑　位置　F9-39G。**覆土**　しまりあり。黄色スコリア含む。1：にぶい黄橙色土。2：黒褐色土。3：黒褐色土。2より鈍い。4：黒色土。5：黒褐色土。黄スコ多い。6：黒色土。7：にぶい黄褐色土。8：黒褐色土。**規模**（cm）126×130，深さ82。**遺物**（第153図）総数23点。内訳土師器22点，須恵器1点。1　土師器の坏か鉢。復元径16cm。赤彩あり。（一括）。2　土師器の甕。復元胴部最大径20.4cm。内面ヘラナデ。外面ナデ，横方向ミガキ。(11)。3　須恵器の甕の胴部破片。細砂，黒色粒子。外面叩き目，擦った痕跡があり，砥石として利用されたらしい。土坑の底面から出土。（1～9）。

P115土坑　位置　F9-39G。**覆土**　径1～2mm黄色スコリア含む。1・6・8以外は，しまりあり。1：灰黄褐色土。2：黒色土。3：黒褐色土。4：黒色土。5：黒褐色土。6：にぶい黄褐色土。7：黒色土。8：黒褐色土。9：黒色土。10：黒色土。9より暗い。11：にぶい黄褐色土。径1～5mm黄スコ多量。12：暗褐色土。13：黒褐色土。径1～10mm黄スコ多量。14：黒褐色土。15：にぶい黄褐色土。**規模**（cm）径153，深さ96。**遺物**（第153図）総数56点。うち土師器52点。縄文中期土器2点など。1～3　土師器坏。1　復元口径14.8cm。黒褐色，赤褐色など。赤褐色粒子など。ナデ，ヘラ削り後ナデ。（5，一括）。2　残存高5cm，復元口径11.8，丸底。橙色。稜あり。（7，一括）。3　完形。高さ5.8cm，口径12.3，丸底。赤彩。ナデ，ミガキ。（8）。

P116土坑　位置　F9-40G。**覆土**　径1mm以上の黄色スコリアを多く含む。3以外は，しまりあり。1：黒色土。2：黒褐色土。3：極暗褐色土。しまりにやや欠ける。4：灰黄褐色土。黄スコ多量。5：黒褐色土。6：黒色土。7：褐灰色土。8：黒色土。黄スコ多量。9：黒色土。8より暗い。10：褐色土。黄スコ多量。11：暗褐色土。12：黒色土。13：黒色土。12より明るい。**規模**（cm）149×127，深さ93。**遺物**（第153図）総数85点。うち土師器75点。縄文中期土器7点など。土師器5点図示。1　坏。完形。高さ5.7cm，口径12.9，丸底。赤彩。(27)。2　鉢。高さ6.2～7.3cm，口径12.1，底径5.4。赤彩。細礫など。(45)。3　高坏の脚裾部。復元底径15.5cm。外面赤彩。(23，26)。4　壺。復元口径15cm。内外に粗いハケ目。(46，25)。5　復元口径12.4cm。内外にハケ目。（5，44）。

P208土坑　位置　F8-88G。**覆土**　しまりにやや欠ける。1：黒褐色土。2：黒褐色土。径1～5mmの黄色スコリアを含む。3：暗褐色土。褐色土混じり。4：黒褐色土。1～3よりもしまりあり。径1mm黄スコ含む。5：黒褐色土。径1～5mm黄スコ含む。6：黒褐色土。径1～2mm黄スコ含む。7：暗褐色土。褐色土混じり。**規模**（cm）116×104，深さ60。**遺物**（第152図）土師器3点。うち2点図示。1　坏。復元口径12.6cm。赤彩。（3）。2　甕。復元底径9cm。赤褐色粒子など。ヘラ削りなど。（1）。

P221土坑　位置　F8-59G～60G。**覆土**　1：暗褐色土。しまりにやや欠ける。径1～2mmの黄色スコリアを含む。2にぶい黄褐色土。しまりあり。黄スコ・ロームブロック多く含む。3：明黄褐色土。黄スコ・ロームブロックを2より多く含む。**規模**（cm）129×112，深さ47。**遺物**（第152図）総数50点。うち土師器坏25点・甕15点。須恵器甕5点など。1～4は，土師器の坏。ロクロ成形。1　復元口径14.5cm。淡褐色。赤褐色粒子など。（2）。2　復元口径12.4cm。外面斜方向ヘラ削り。（一括）。3　復元底径6.4cm。外面体部下端ヘラ削り（回転）。(19)。4　復元底径4cm。暗灰色。雲母など。体部下端ヘラ削り（手持ち）。（1）。5・6は，須恵器の甕。5　内面ナデ。外面叩き目。（3）。6　復元頸部径14.2cm。(16)。



第 150 図　円形土坑実測図（1）

P262土坑　位置　F8-77G。**覆土**　しまりあり。径1mm以上の黄色スコリアを含む。1～4は，しまりあり。1：黒色土。2：黒褐色土。3：黒色土。4：黒色土。黄スコ多量。5：明黄褐色土。黄スコ極めて多量。しまりにやや欠ける。**規模**（cm）128×118，深さ28。**遺物**　無し。

P268土坑　位置　F8-87G。**覆土**　しまりあり。径1mm以上の黄色スコリアを多く含む。1：黒色土。径1～3mmの焼土粒子を少量含む。2：黒色土。1より暗い。3：褐色土。4：黒褐色土。5：黒褐色土。4より暗いが鮮やか。6：極暗褐色土。径1～5mm黄スコ多量含む。7：暗褐色土。黄スコ多量。8：にぶい黄褐色土。9：黄褐色土。径1～5mm黄スコ多量含む。10：明黄褐色土。**規模**（cm）126×116，深さ50。**遺物**　総数10点。内訳縄文土器細片3点，弥生土器7点。

P316土坑　位置　F8-74G。**覆土**　しまりあり。径1mm以上の黄色スコリアを多く含む。1：黒色土。2：にぶい黄褐色土。3：黒褐色土。4：黒色土。5：黒色土。黄スコ多量。6：黒褐色土。黄スコ多量。7：黒褐色土。径1～3mmの黄スコを極く多量含む。8：黒褐色土。黄スコ多量。9：灰褐色土。黄スコ多量。10：黒色土。11：黒褐色土。12：明黄褐色土。径15～28mmロームブロックを含む。13：明黄褐色土。**規模**（cm）128×122，深さ46～52。**遺物**　総数6点。内訳縄文土器（早期・中期・細片）4点。弥生土器2点。

P386土坑　位置　F9-6G。**覆土**　黄色スコリアを多く含む。4・6以外は，しまりあり。1：黒色土。径1mm炭化粒子少量含む。2：黒色土。3：黒褐色土。4：極暗褐色土。しまりやや欠ける。径1mm焼土粒子少量含む。5：黒褐色土。径1mm炭化粒子・焼土粒子少量含む。6：黄褐色土。しまりやや欠ける。径1～5mm黄スコ多量含む。7：黒褐色土。8：黄褐色土。黄スコ多量。9：黒色土。10：ZHB。**規模**（cm）径120，深さ46，P1：59，P2：54，P3：52。**遺物**（第153図）　総数62点。縄文中期土器，弥生後期土器，土師器（最多），須恵器，打製石斧（第59図145），黒曜石剥片など。1・2は，土師器の坏。1　復元口径15.4cm。（22，18など）。2　復元口径12cm。（12，19）。3・4は，土師器の碗。3　高さ7.8cm，口径15.5，丸底。赤彩。（35～37）。4　復元底径4.6cm。赤彩。（13，11など）。5　土師器の鉢。復元口径12cm。赤彩。（14）。6　須恵器の甕。内面当て具痕。外面叩き目。（9，16など）。

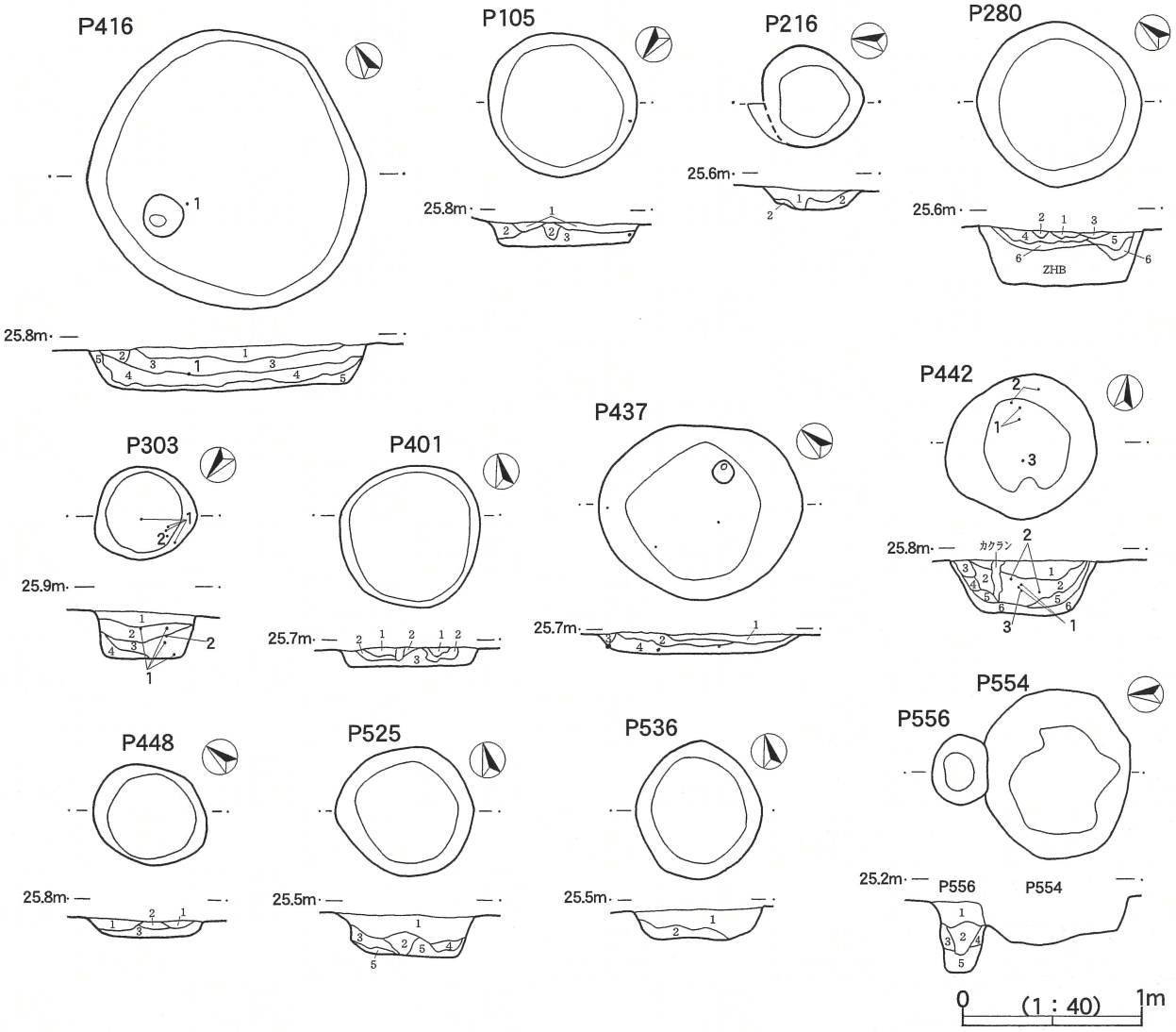
P518土坑　位置　F9-26G。P555風倒木痕を切る。**覆土**　しまりあり。径1～2mmの黄色スコリアを含む。1：黒褐色土。2：黒色土。3：暗褐色土。4：黄褐色土。5：黒褐色土。6：暗褐色土。黄スコ多量。7：黒褐色土。黄スコ多量。8：黄褐色土。黄スコ多量。9：掘りすぎ。P555覆土。**規模**（cm）120×110，深さ20。**遺物**　総数31点。縄文中期土器18点，土師器10点，黒曜石剥片2点など。土師器は，赤彩が認められる非ロクロの坏などである。

P526土坑　位置　F9-15G。**覆土**　しまりあり。径1mm以上の黄色スコリアを多く含む。1：黒褐色土。2：黒色土。3：暗褐色土。4：褐色土。5：黄褐色土。6：褐色土。径1～28mm黄スコ・ロームブロック多量含む。7：明褐色土。8：橙色土。径10～25mmロームブロック含む。9：黄褐色土。径10～31mmロームブロック多量含む。**規模**（cm）径100，深さ50。**遺物**　総数3点。縄文早期・中期土器2点，土師器ロクロ坏（内黒）1点。

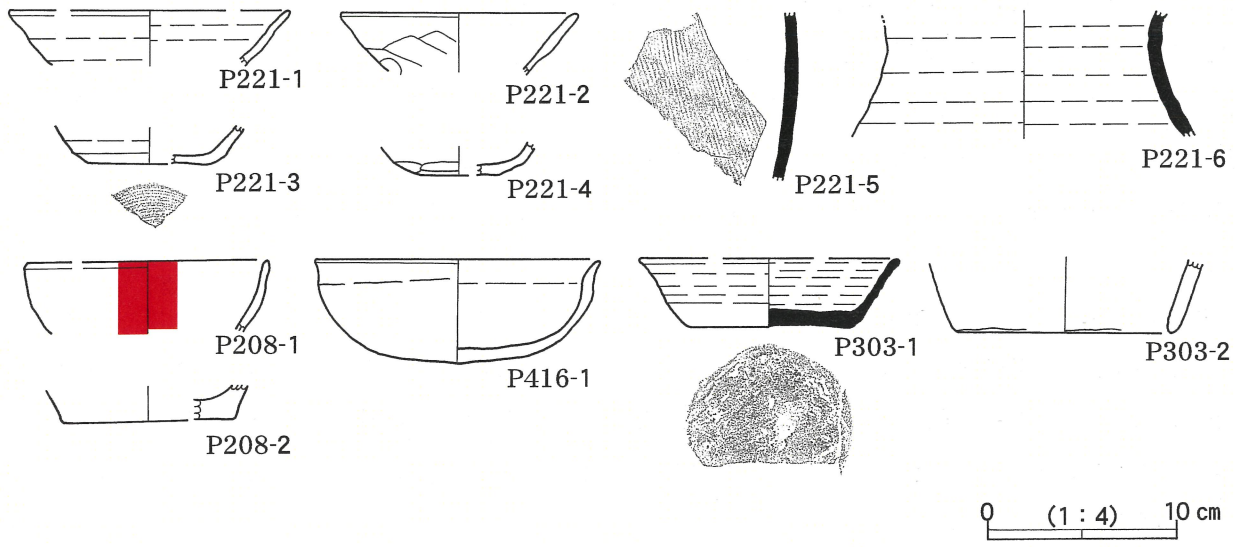
（第151図）

P416土坑　位置　F9-17G。**覆土**　しまりあり。径1～2mmの黄色スコリアを含む。1：黒色土。2：灰褐色土。3：黒褐色土。4：極暗褐色土。黄スコ多量。5：明褐色土。径1～10mmの黄スコ多量含む。**規模**（cm）160×145，深さ24，ピット40。**遺物**（第152図）総数28点。縄文早期・中期土器20点，土師器4点，黒曜石剥片1点など。縄文土坑が密集する地点なので，縄文土器が多く含まれていた。1　土師器の坏。高さ5.4cm，復元口径14.8。丸底。淡橙褐色。細礫など。（5）。

P105土坑　位置　F9-30G。**覆土**　1：黒色土。しまりにやや欠ける。径1～3mmの黄色スコリアを含む。2：黒



第 151 図　円形土坑実測図（2）



第 152 図　円形土坑出土遺物（1）

褐色土。しまりあり。黄スコ多量含む。3：暗褐色土。しまりあり。径1～2mmの黄スコ多量含む。規模（cm）83×80，深さ12。遺物　総数3点。内訳縄文中期土器2点，土師器1点。

P216土坑　位置　F8-68G。D57住居跡を切る。覆土　1：黒色土。しまりあり。粘性富む。2：黄褐色土。堅緻。規模（cm）58×55，深さ11。遺物　無し。

P280土坑　位置　F8-77G～76G。覆土　しまりあり。径1mm以上の黄色スコリアを含む。1：黒色土。2：黄橙色ロームブロック。3：黒褐色土。4：灰黄褐色土。5：黒色土。6：明黄褐色土。黄スコ多量含む。規模（cm）92×90，深さ30。遺物　無し。

P303土坑　位置　F9-27G。D71住居跡を切る。覆土　しまりあり。径1～2mmの黄色スコリアを含む。1：黒色土。2：黒色土。1より暗い。3：黒褐色土。4：褐色土。径1～10mmの黄スコ多量。規模（cm）58×52，深さ27。遺物（第152図）総数21点。土師器11点，須恵器5点，縄文中期土器，焼成粘土塊1点など。1　須恵器の坏。高さ3.7cm，復元口径13.4，底径8.8。黒灰色。雲母，石英・長石細礫など。ロクロ成形。底外面ヘラ削り。（3，5～7）。2　土師器の甑。単孔。復元底径11.2cm。（4など）。

P401土坑　位置　F9-6G。覆土　しまりあり。径1mmの黄色スコリアを少量含む。1：黒褐色土。2：暗褐色土，褐色土。3：褐色土。規模（cm）81×78，深さ10。遺物　無し。

P437土坑　位置　F9-16G。覆土　しまりあり。径1～5mmの黄色スコリアを含む。1：黒褐色土，黒色土。径1mm焼土粒子少量含む。2：極暗褐色土。3：褐色土。4：明褐色土。規模（cm）116×98，深さ11，ピット22。遺物　総数8点。縄文中期土器2点，土師器5点など。

P442土坑　位置　F9-26G。P443土坑を切る。覆土　しまりあり。径1mmの黄色スコリアを含む。1：黒色土。2：黒褐色土。3：暗褐色土。径1～3mmの黄スコ含む。4：褐色土。5：明褐色土。6：ZHB。規模（cm）84×80，深さ31。遺物（第153図）総数17点。縄文土器2点，土師器坏5点・甕4点，須恵器甕1点，黒曜石剥片2点，焼成粘土塊1点など。1　土師器の坏。残存高4.6cm，復元口径12，丸底。赤彩。（13，14）。2　土師器の甕。復元頸部径11.8cm。橙褐色。赤褐色粒子など。内外ナデ，ヘラ削り。（12，15）。3　須恵器の甕。復元口径24.8cm。粗砂，細礫。ロクロ成形。波状文。（7）。

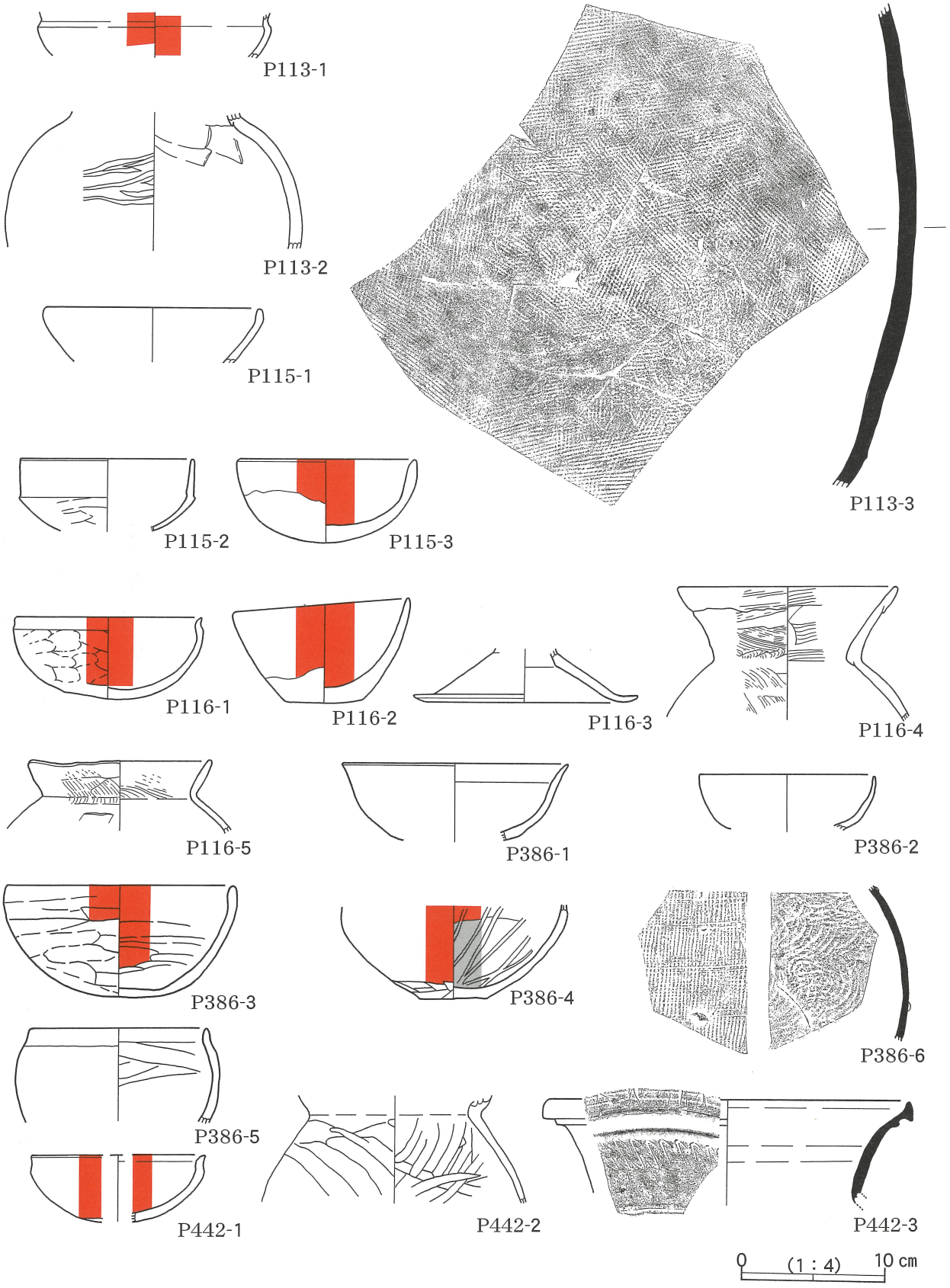
P448土坑　位置　F9-16G。覆土　しまりあり。径1mm以上の黄色スコリアを含む。1：黒色土。2：暗褐色土。径1mm焼土粒子少量含む。3：褐色土。規模（cm）67×55，深さ9。遺物　総数3点。内訳須恵器坏，黒曜石剥片，小礫，各1点。

P525土坑　位置　F9-15G。覆土　径1mm以上の黄色スコリアを含む。2～5は，しまりあり。1：黒褐色土。しまりにやや欠ける。径1～3mmの黄スコ多量。2：黒色土。径1～5mmの黄スコ含む。3：黒褐色土。4：暗褐色土。黄スコ多量。5：褐色土。規模（cm）77×73，深さ22。遺物　総数7点。内訳縄文土器2点，土師器小片2点，須恵器小片3点。

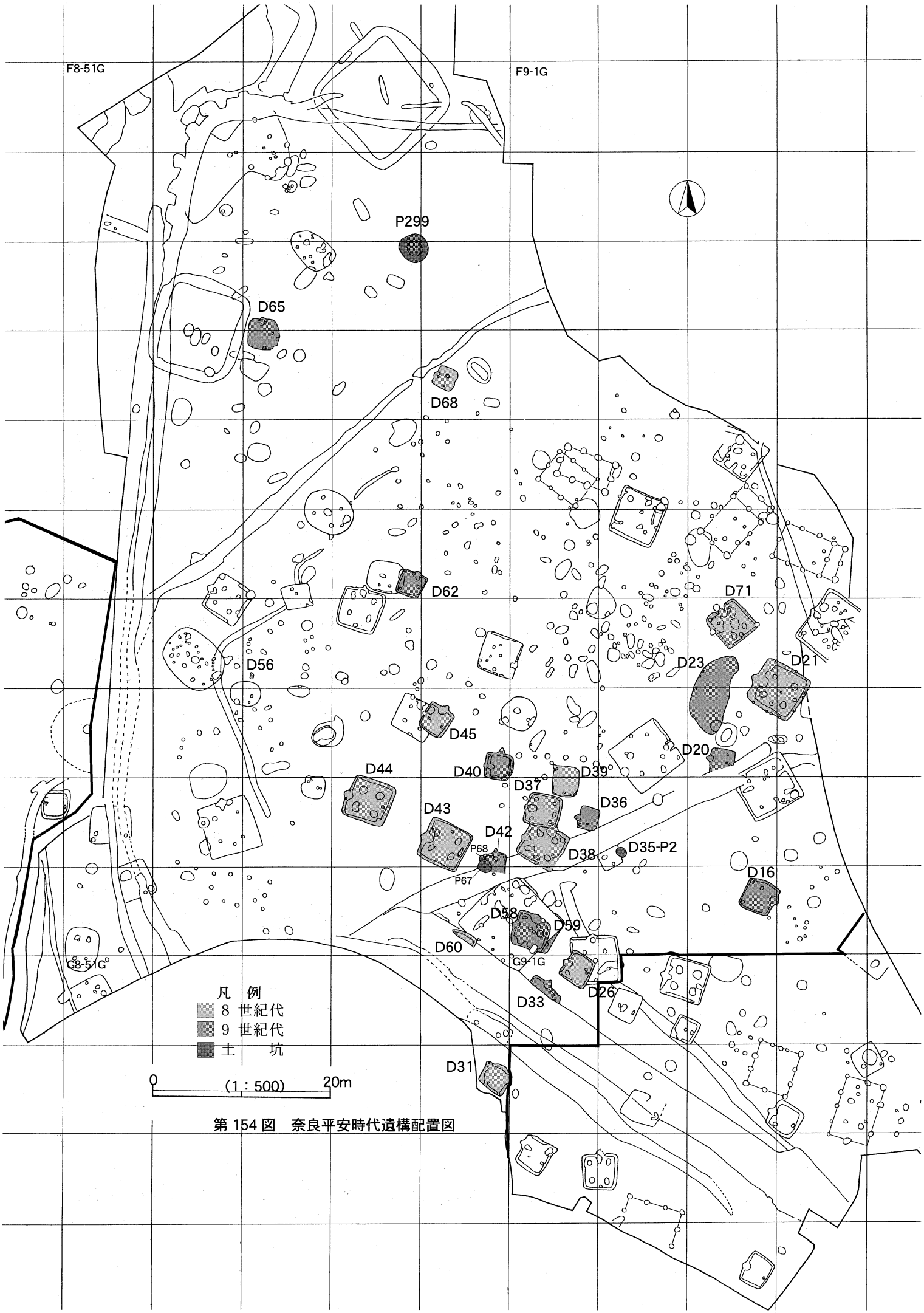
P536土坑　位置　F9-25G。覆土　しまりあり。径0.5～2mmの黄色スコリアを含む。1：暗褐色土。2：褐色土。規模（cm）77×71，深さ17。遺物　総数12点。内訳縄文土器3点，土師器小細片6点，須恵器3点。

P554土坑　位置　F9-14G。P556に切られる。覆土　しまりあり。黒褐色土，暗褐色土，最下にローム混じりの明褐色土。規模（cm）95×80，深さ25。遺物　総数30点。内訳縄文中期土器5点，土師器21点，須恵器2点，黒曜石剥片，焼礫。

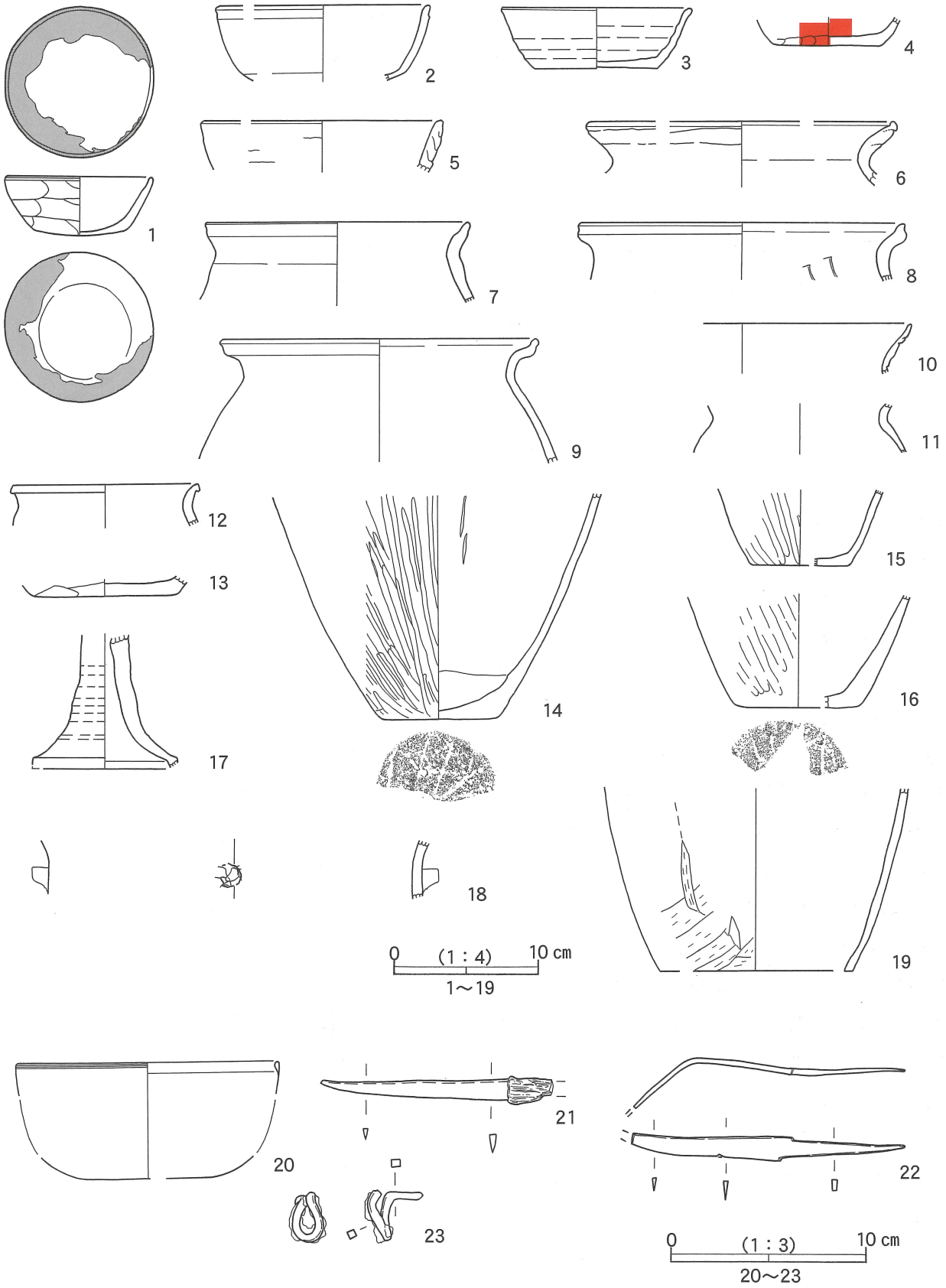
P556土坑　位置　F9-14G。P554を切る。覆土　径0.5～1mmの黄色スコリアを含む。1：褐色土。2：暗褐色土。3：褐色土。しまりにやや欠ける。4：褐色土。しまりにやや欠ける。5：暗褐色土。規模（cm）40×30，深さ40。遺物　無し。特記事項　柱穴状ピット。



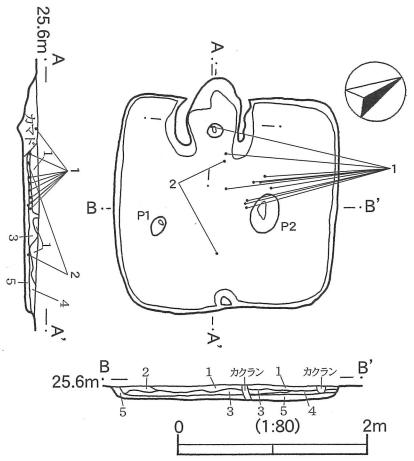
第 153 図　円形土坑出土遺物（2）



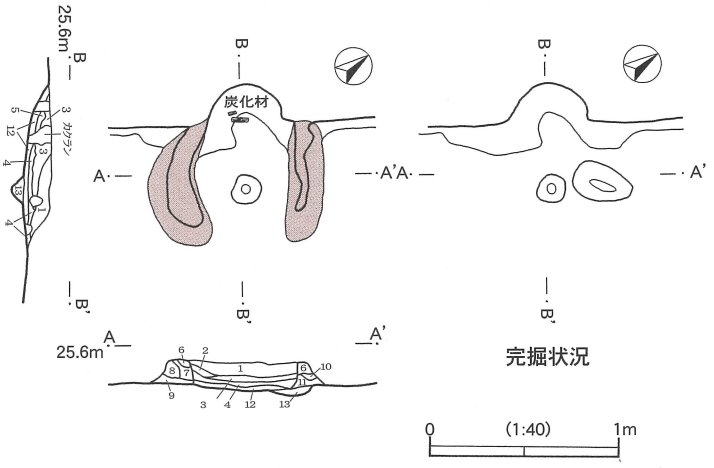
第 154 図　奈良平安時代遺構配置図



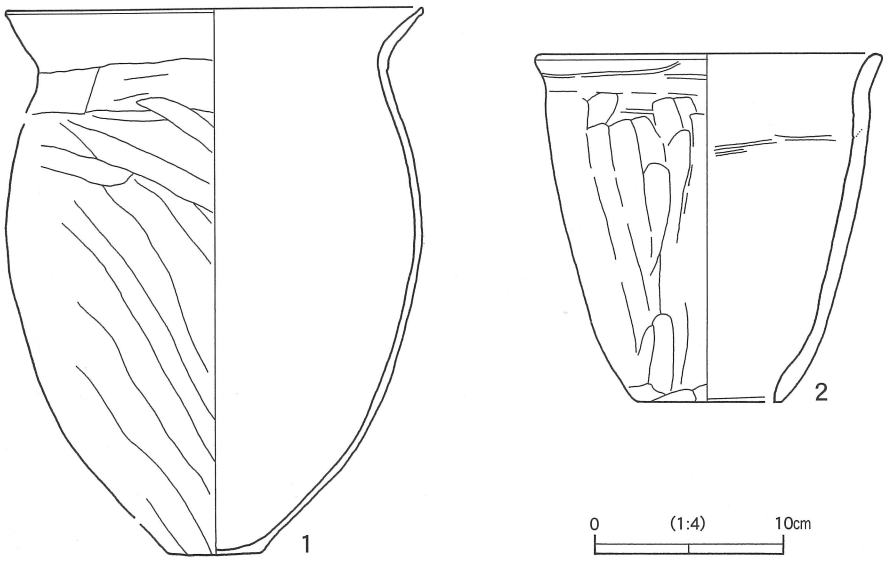
第 177 図　D71 住居跡出土遺物（1）



第 197 図　D68 住居跡実測図



第 198 図　D68 住居跡カマド実測図



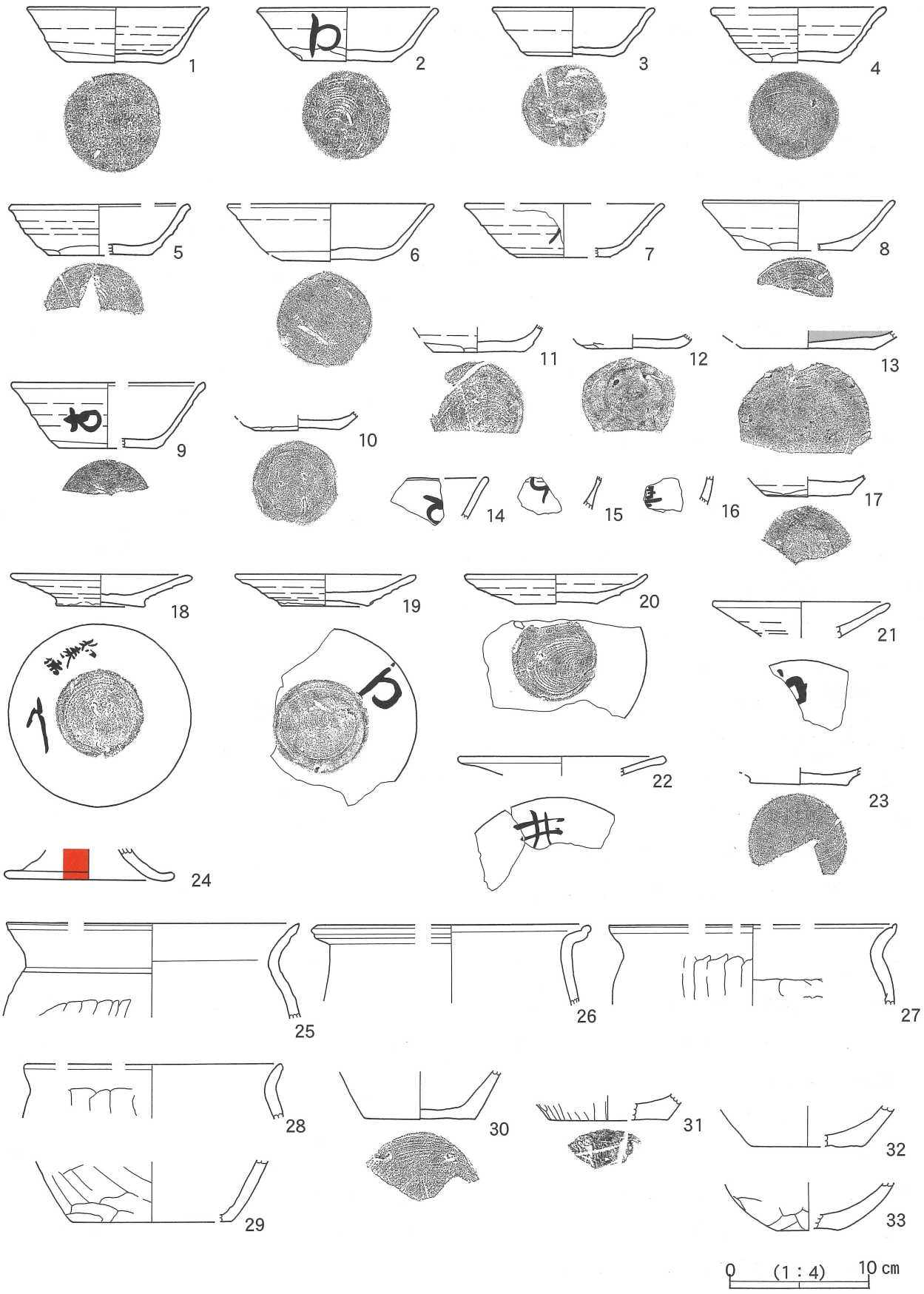
第 199 図　D68 住居跡出土遺物

7.5YR4/3(褐色土)。粘土，ローム，焼土粒子，炭化物を含む。12：ZHB。13：ピット覆土。柱穴　P 1 ・P2が相当か。P1は，覆土褐色～暗褐色土，深さ23cm。P2は，覆土褐色土で不明瞭，深さ10cm。

遺物　総数60点出土。縄文土器 7 点，土器片錘 1 点，弥生土器 2 点，土師器49点，軽石 1 点。

1　土師器の甕。胴部の略半分が欠損。高さ28.9cm，口径22，底径4.7。橙色・暗褐色など。細砂。口縁部内外に横ナデ痕。内面ナデ。外面横～斜～縦方向のヘラ削り。底面：ヘラ削り。胴下半に煤が付着し，頸部直下にも黒色の帯が残っており，火にかけたことを示す使用痕跡であろう。武蔵型の甕。（1，19，21，23，34，36～38，41，47，その他小細片多数）。

2　土師器の甑，単孔。高さ18.5cm，復元口径18，復元底径7.8。内面橙褐色。外面にぶい褐色。口縁は内外横方向ナデ。内面：縦方向ミガキ。外面縦～横方向のヘラ削り。(42・30・F8-94-2G)。



第 237 図　D23 遺構出土遺物（1）